取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER

TABLE OF CONTENTS

目次

TABLE OF CONTENTS　目次

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- バックガイドモニター
- ETC システム
- オーディオ＆ビジュアル
- エアコン
- リヤシートエンターテイメントシステム
- ヘルプネットスイッチパネル

1 運転する前に

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

6 車両仕様

さくいん

1
2
3
4
5
6

外観

フロントワイパー P. 204
ボンネット P. 380
補助確認装置* P. 100
ムーンルーフ* P. 106
ドアミラー P. 96
方向指示灯 P. 178
フロントフォグランプ* P. 202
ヘッドランプ P. 199
車幅灯 P. 199
方向指示灯 P. 178

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

イラストは 8 人乗り車で代表しています。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

B
ドライビングポジション
メモリースイッチ* P. 73
ロックレバー P. 42
ドアロックスイッチ P. 42
ウインドウロックスイッチ P. 102
パワーウインドウスイッチ P. 102
ITIPC107

C

AVS スイッチ* P. 248

ECT パターンセレクトスイッチ P. 174

シートヒーター＆
ベンチレータースイッチ* P. 357

シフトレバー P. 173

灰皿 P. 350

シガレットライター P. 351

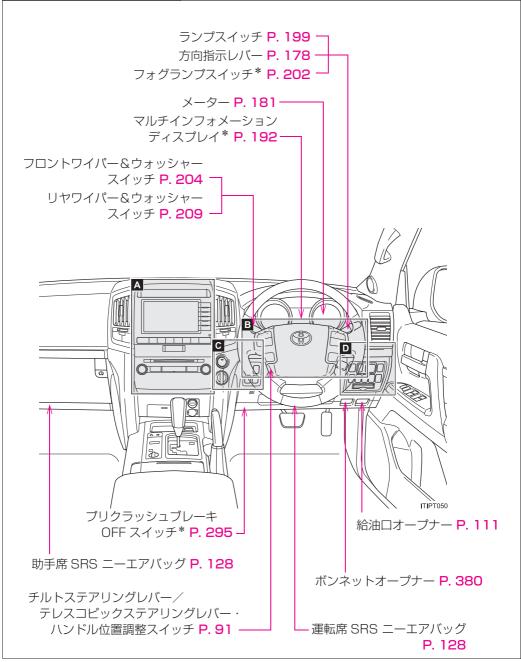
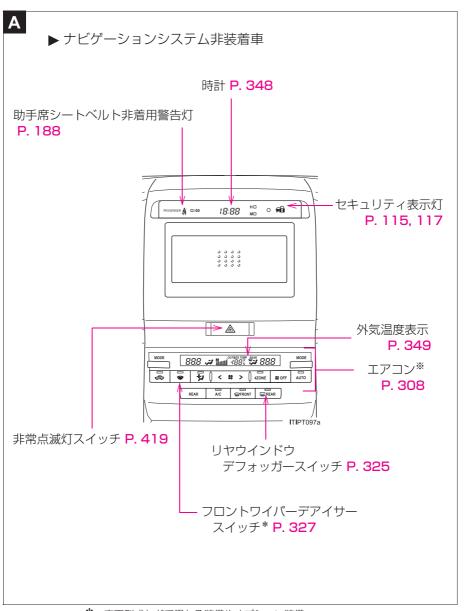
アクセサリーソケット P. 352

AUX ／ USB 端子*※

ITIPT052

パーキングブレーキレバー P. 179

シフトロック解除ボタン P. 463

車高切り替えスイッチ／
車高制御 OFF スイッチ* P. 239

クロールコントロールスイッチ P. 255

マルチテレインセレクトモード
セレクトスイッチ P. 261

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

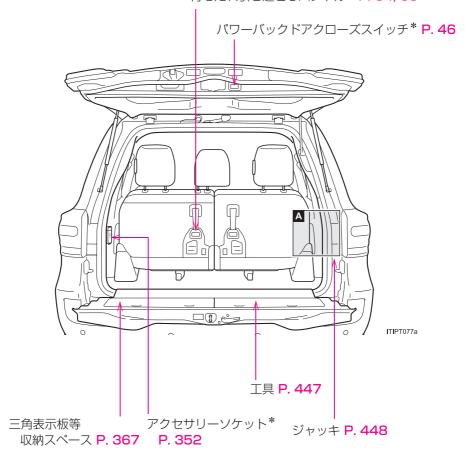
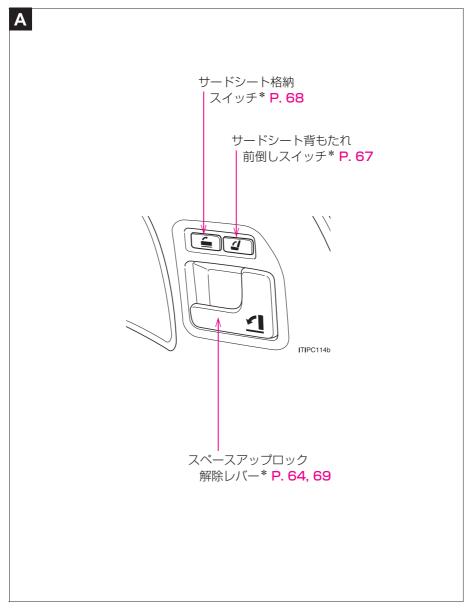
インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：イラストは前後左右独立温度コントロールオートエアコンで代表しています。

A

▶ ナビゲーションシステム装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

C
カメラスイッチ＊ P. 266
エンジン（イグニッション）
スイッチ P. 169
トランスファースイッチ P. 249
ENGINE
START
STOP
VIEW
PWR
DOOR
OFF
ITIPT081
パワーバックドアメインスイッチ＊ P. 46
パワーバックドアスイッチ＊ P. 46

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ラゲージルーム

イラストは８人乗り車で代表しています。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、「チャイルドシートの取り付け」（→P. 149）をお読みください。

本書の中の表示について

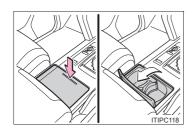
警告・注意・知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

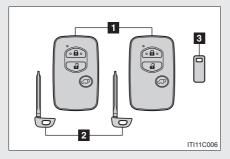
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

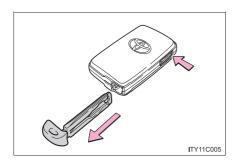
1 電子キー※

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 28）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 40）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

※イラストはパワーバックドア装着車のキーで代表しています。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 465）

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。
(→P. 464)

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

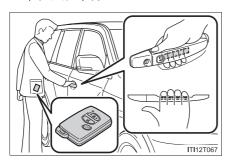
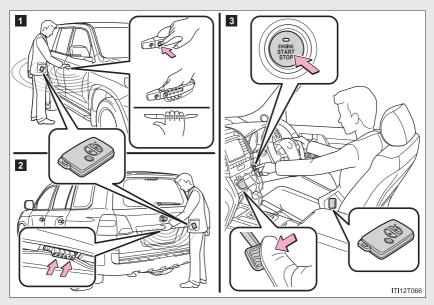
■電子キーの故障を防ぐために

- 電子キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。
- 電子キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

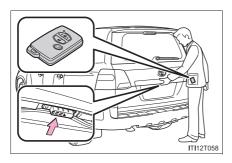
- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアの解錠・施錠 （→P. 29）
2 ドアの解錠・施錠 （→P. 30）
3 エンジンの始動 （→P. 169）

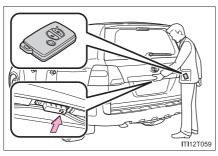
ドアの解錠・施錠

▶ ドアハンドル

ITI12T067

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

- ドアが解錠されたことを確認してから、ドアハンドルを引いてください。
- 施錠操作後、約3秒間は解錠できません。

ITI12T068

ロックスイッチを押して施錠する

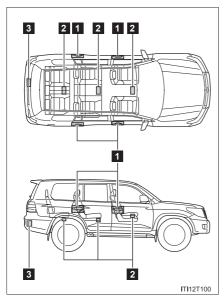
ロックスイッチの操作でドアガラス・ムーンルーフを閉じられるように設定を変更できます（AX、ZX のみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

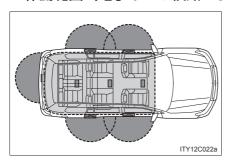
▶ バックドア

ITI12T058

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後、約 3 秒間は解錠できません。

ITI12T059

バックドアロックスイッチを押して施錠する

ロックスイッチの操作でドアガラス・ムーンルーフを閉じられるように設定を変更できます（AX、ZX のみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

手順 2 オートアラームの侵入・傾斜センサー*を停止する（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 117）

手順 3 電子キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、施錠ボタンと同時に、解錠ボタンまたはパワーバックドアボタン（パワーバックドア装着車のみ）のいずれかを約５秒間押し続ける

設定をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手を離したあと、５秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください）

マルチインフォメーションディスプレイ*	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（　　ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 118）

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■オートアラームについて

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠すると、オートアラームが設定されます。（→P. 117）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●30 日以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 1m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかの操作をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 40）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 465）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です（電子キーを使用しなくても電池は消耗します）。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 412）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 36）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の約 1m 以内に電子キーを置かないでください。

・テレビ
・パソコン
・充電中の携帯電話やコードレス式電話機
・電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯したうえで作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーがリヤバンパー中央に近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネル上やフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を装着していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●作動範囲（→P. 31）への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、ドアが解錠されないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイ*に警告が表示されることがあります。以下に従い適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける※1	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れ、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける※1	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
車内から“ポーン”と 1 回鳴る※1	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※2
車内から“ポーン”と 1 回鳴る 車外から“ピー、ピー、ピー”と 3 回鳴る※1	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度運転席ドアを閉めてください。
	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	電子キーを車内にもどしてください。

※1 オプティトロンメーター装着車は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

※2 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 39)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないときは

- ドアの施錠・解錠：→P. 465
- モードの切り替え／エンジンの始動：→P. 465

■電池が切れたときは

→P. 412

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

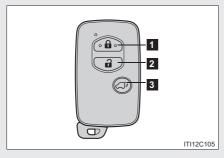
警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ（→P. 31）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。
（対処方法：→P. 465）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - ・他の車の電子キー
  - ・電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコン
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

3 パワーバックドア開閉*
（約 1 秒長押し）

ワイヤレスリモコンの操作でドアガラス・ムーンルーフを開閉できるように設定を変更できます（AX、ZX のみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワーバックドア*：ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。
（ブザーは作動開始時に 1 回、作動中は断続的に鳴ります）

■作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF 以外のときは、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■半ドア警告ブザー

→P. 33

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 117)

■電池の消耗について

→P. 34

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 34

■電池が切れたときは

→P. 412

■パワーバックドア*の反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切り替わります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切り替わりません。

■パワーバックドア*の開閉について

施錠されている状態でもパワーバックドアを開けることができます（ワンモーション）。この場合、バックドアを閉めても施錠されないため、もう一度施錠操作をおこなってください。

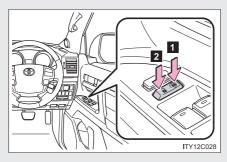
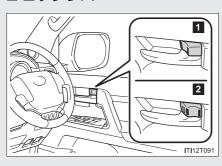
■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

ワイヤレス機能を非作動にするなどの変更ができます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 39

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 28

■ ワイヤレス機能

→P. 40

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

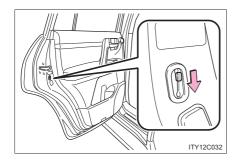
2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

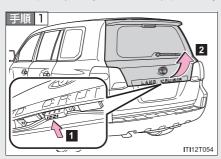
ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482)

警告

■**事故を防ぐために**

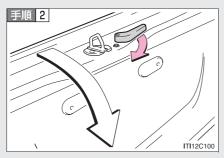
運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを施錠する

●すべてのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤシートに乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■**ドアを開閉するときは**

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

以下の機能を使ってバックドアを施錠・解錠・開閉することができます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 28

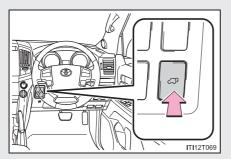
▶ ワイヤレス機能
→P. 40

▶ ドアロックスイッチ
→P. 42

■ 車外からバックドアを開けるには

▶ バックドアオープンスイッチ・下側ドアハンドル

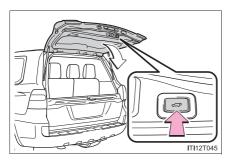
1 ロックを解除する

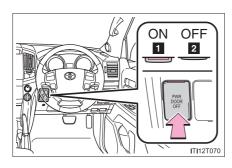
2 引き上げる

ハンドルを引く

バックドアの開閉後は、自動的に施錠されません。お車から離れるときは、ドアを再度施錠してください。

▶ ワイヤレス機能（パワーバックドア装着車）
→P. 40

■ 車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

ITI12T069

パワーバックドアスイッチを約1 秒長押しする

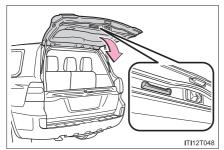
開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

パワーバックドアクローズスイッチ（パワーバックドア装着車）

ITI12T045

スイッチを押す

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

ITI12T070

パワーバックドアメインスイッチを ON にする

1 ON

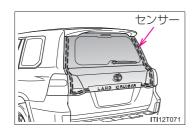
ONにするとスイッチ上部のオレンジ色のマークがあらわれます。

2 OFF

バックドアを閉めるときは

ITI12T048

● 上側バックドアを閉める前に下側バックドアが閉まっていることを確認してください。

● バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されている（閉作動を除く）

●下側バックドアが閉まっている（閉作動のみ）

●“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっていること

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

ITI12T071

●上側バックドアの左右端部には、センサーが付いています。上側バックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

●上側バックドアを自動で閉めているときに、下側バックドアを開けると、バックドアは自動的に反対方向に動きます。

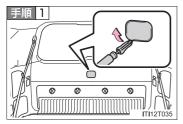
■**バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）**

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定をおこなってください。

●ドアロックスイッチでドアを解錠する

●バックドアを手動で一度全閉にする

■**バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）**

上側または下側バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で閉まります。

●“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチや下側バックドアのハンドルを操作してバックドアを開けることができます。

●下側バックドアのイージークローザーが作動するときはブザーが鳴ります。

■**パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）**

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また、開閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。

●パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、バックドアは自動で作動しませんが、手動で開閉できます。

●バックドアが自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。

●バックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

●連続して 2 回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ネジ（1 本）を取りはずし、内側カバーを取りはずす（パワーバックドア非装着車）

手順 3 レバーを押す

▶ パワーバックドア非装着車

▶ パワーバックドア装着車

■販売店で設定可能な機能

スイッチ操作などの変更ができます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482)

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉じてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

ITI12T052

ITI12T053

●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■**バックドアイージークローザーについて（パワーバックドア装着車）**

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■**パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）**

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことをしらせる「声かけ」をしてください。

●バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたときに急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。

警告

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

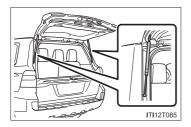
●傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

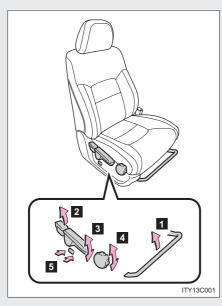
●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

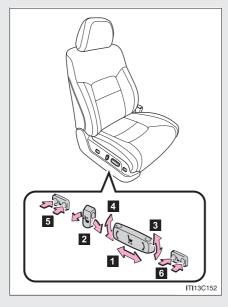
■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■**バックドアイージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

イージークローザーの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。

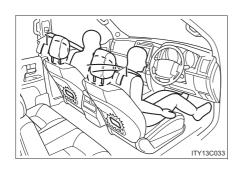
■**パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。

●バックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

フロントシート

■ マニュアルシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席）

4 クッション前端の上下調整（運転席）

5 腰部硬さ調整（運転席）

■ パワーシート

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整
4 シート全体の上下調整
5 腰部硬さ調整（運転席）
6 クッションの長さ調整*（運転席）

アクティブヘッドレスト*

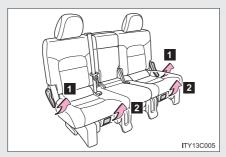
背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■アクティブヘッドレスト*について

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

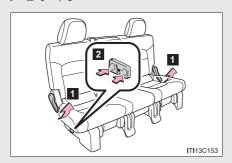
警告

■シート調整について

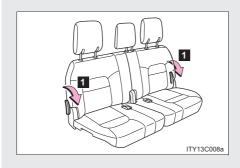
●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

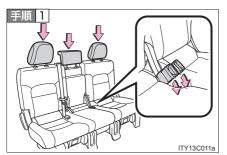
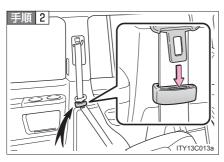
リヤシート

■ セカンドシート

▶ A タイプ

1 リクライニング調整

2 前後位置調整

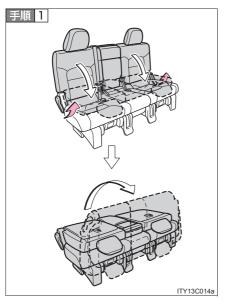
▶ B タイプ

■ サードシート*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

セカンドシートの格納、サードシート*への乗り降り

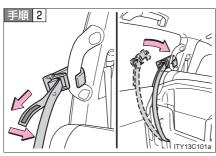
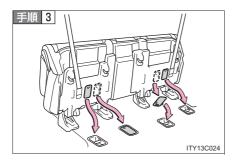
サードシートへの乗り降りの際は、“セカンドシートの格納のしかた”の 手順 1 の操作をおこなってください。（→P. 60）

■ セカンドシートを格納する前に

バックルを格納し、ヘッドレストをいちばん下まで下げる

シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

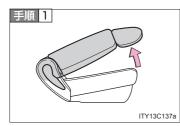
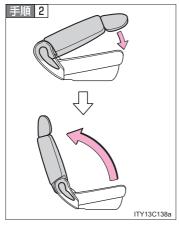
シートベルトが損傷するのを防ぎます。

使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

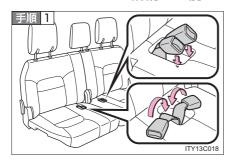
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ セカンドシートの格納のしかた

レバーを引く

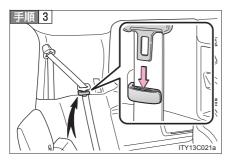
背もたれが前に倒れ、シートがはね上がります。

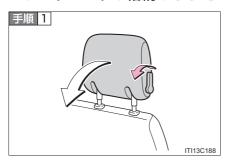
アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する

シートをもとにもどすときは、フックを格納します。

シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずしシートフックの位置に取り付ける

シートをもとにもどすときは、シートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付けます。

知識

■右側シートの背もたれが上がらないときは

背もたれを止まるところまで引き起こす

背もたれを少し下げてから再度引き起こす

サードシートの格納（A タイプ）＊

■ サードシートを格納する前に

バックルを格納する

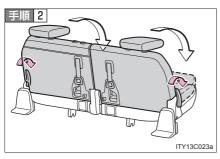
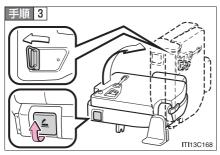
手順 2 中央席のヘッドレストを格納する（→P. 80）

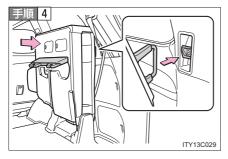
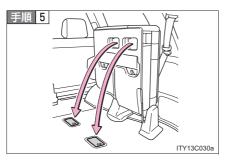
シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

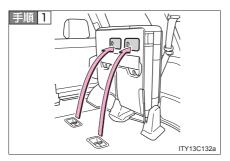
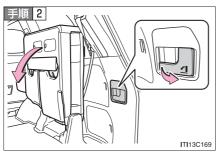
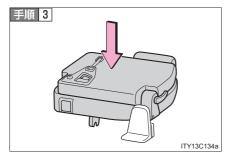
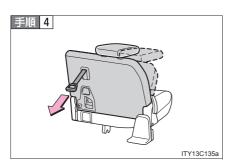
使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

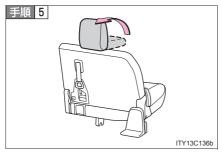
手順 4 中央席のシートベルトを格納する（→P. 84）

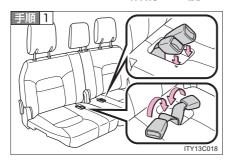
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ サードシートの格納のしかた

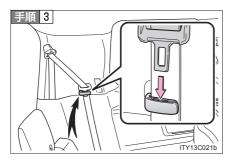
ヘッドレスト前倒しレバーを引いて外側席ヘッドレストを倒す

レバーを操作して背もたれを倒す

インナーレッグロック解除レバーを引く

シートがはね上がり、ストライカーが起き上がります。

はね上げる際に、背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが固定されていることを確認してください。

シートを側面に押し付けて、確実に固定する

シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずし、シートフックの位置に取り付ける

■ サードシートのもどし方

フロアに取り付けたシートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付ける

スペースアップロック解除レバーを引き、シートをおろす

シートを押し付けて、確実に固定する

背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルを引き、背もたれを起こす

ハンドルを使用したあとは、もとの位置に確実に固定してください。

ヘッドレストを起こす

サードシートの格納（B タイプ）＊

■ サードシートを格納する前に

バックルを格納する

手順 2 中央席のヘッドレストを格納する（→P. 80）

シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

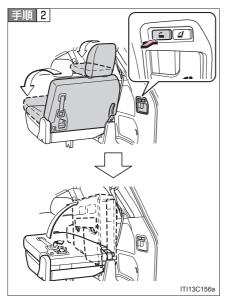
手順 4 中央席のシートベルトを格納する（→P. 84）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

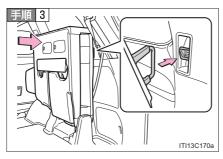
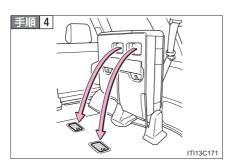
■ サードシートの背もたれの前倒し

手順 1 “サードシートを格納する前に”の操作をおこなう（→P. 66）

手順 2

ITI13C155a

シートを前倒しする

サードシート背もたれ前倒しスイッチを押し、シートを自動的に折りたたみます。

■ サードシートの格納のしかた

手順 1 “サードシートを格納する前に”の操作をおこなう（→P. 66）

シートを格納する

サードシート格納スイッチを押すと、自動的にシートが格納されます。

操作前に背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが操作できることを確認してください。

シートを側面に押し付けて、確実に固定する

ITI13C171

シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずし、シートフックの位置に取り付ける

■ サードシートのもどし方

ITI13C172

フロアに取り付けたシートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付ける

ITI13C157a

スペースアップロック解除レバーを引き、シートをおろす

ITI13C173a

シートを押し付けて、確実に固定する

背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルを引き、背もたれを起こす

ハンドルを使用したあとは、もとの位置に確実に固定してください。

ヘッドレストを起こす

警告

■リヤシートを操作するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■シート格納時は

- 走行中は、格納したシートに乗ったり、ものを置いたりしないでください。
- シートフックの位置に確実にシートフックカバーを取り付けてください。
  お守りいただかないと、やけどをするおそれがあり危険です。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートのあいだに手や足などを挟まないよう注意する
- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれていたり、シート下に挟み込まれていないか確認する
- シートベルトがシートベルトハンガーからはずれているか確認する

注意

■**シートを操作するときは**

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■**部品の損傷を防ぐために**

ストライカーにものをかけたり取り付けたりしないでください。

■**シートを格納する前に**

シートベルトとバックルを格納してください。

■**サードシート*をもどしたあとは**

サードシートの背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが固定されていることを確認してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

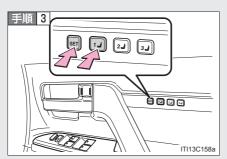
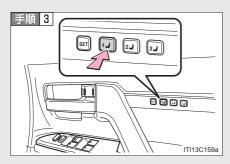
ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることができます。（メモリーコール機能）
ドライビングポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジン　スタート　ストップ”　スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

手順 3

SET ボタンを押してから、3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

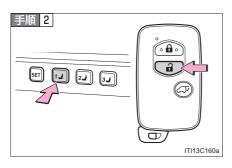
手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 “エンジン　スタート　ストップ”　スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 3

1 ～ 3 のうち呼び出したいボタンを押す

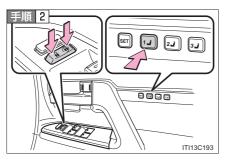
ボタンを押すとブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（メモリーコール機能）

お好みのポジションをあらかじめ１～３のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 運転席ドアを閉めた状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードから OFF にする

手順 2 1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 ボタンをブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 118）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキーのみ携帯してください。車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 運転席ドアを閉めた状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードから OFF にする

手順 2

１～３のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 運転席ドアを閉めた状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードから OFF にする

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合 ：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 ボタンをブザーが鳴るまで押す
ドアロックスイッチで解除する場合 ：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

1
運転する前に

■乗車前に呼び出すには

運転席ドアを開け、180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと調整されます。

■ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■バッテリーとの接続が断たれたときは

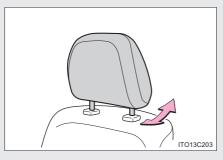
記憶したポジションが消去されるので、再設定が必要となります。

警告

■シート調整時の警告

シート調整時は、シートがセカンドシート乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

注意

■メモリーコール機能を登録するときに

手順 2(→P. 74) でブザーが鳴ったら、ドアロックスイッチから手を離してください。そのままドアロックスイッチを押し続けると、オートドアロック・アンロック機能（→P. 42）が切り替わる場合があります。

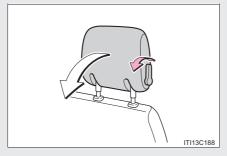
ヘッドレスト

■ フロントシート

1 上げる

2 下げる

解除ボタンを押しながら操作します。

前後調整*

■ セカンドシート

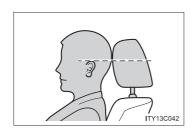
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

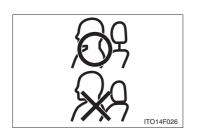
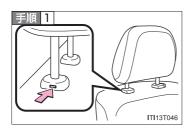
■ サードシート（外側席）＊

ITI13C188

格納時

ヘッドレスト格納レバーを引きながら格納します。

知識

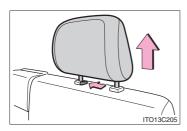
■ヘッドレストの高さについて

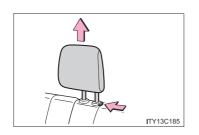
ITY13C042

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■セカンドシート中央席のヘッドレストの使用について

ITO14F026

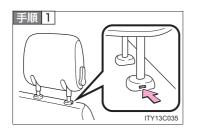
使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヘッドレストの取りはずし

▶ フロントシート

スロットにマイナスドライバーを挿し込む
（スロットはヘッドレスト右側にあります）

手順 2 マイナスドライバーを挿し込みながらヘッドレストを引き抜く

▶ セカンドシート

解除ボタンを押しながら取りはずす

▶ サードシート中央席＊

解除ボタンを押しながら取りはずす

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ サードシート外側席（サードシート A タイプ）*

ITY13C035

スロットにマイナスドライバーを挿し込む（スロットはヘッドレスト左側にあります）

手順 2 マイナスドライバーを挿し込みながらヘッドレストを引き抜く

■ サードシート外側席ヘッドレストの取り付け（サードシート A タイプ）*

手順 1 挿入穴にヘッドレストを挿入する

手順 2 ヘッドレストがロックする位置まで押し込む

■ サードシート中央席のヘッドレストの格納について*

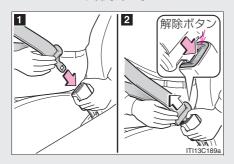
ITY13C043

サードシート背面のファスナーを開けてヘッドレストを格納します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレスト調整後は、ヘッドレストを押し込んで確実に固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

ITY13C045

● 肩部ベルトを肩に十分かける

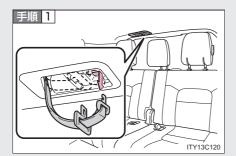
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

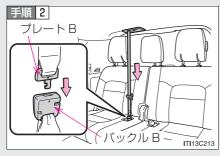
● ねじれがないようにする

■ 着け方、はずし方（フロントシート・セカンドシート・サードシート外側席*）

ITI13C189a

1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 着け方、はずし方（サードシート中央席*）

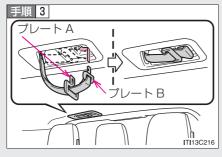
プレートを取り出す

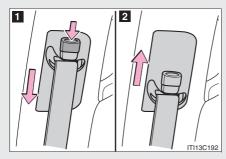
バックル B に“カチッ”と音がするまでプレート B を挿し込む

バックル A に“カチッ”と音がするまでプレート A を挿し込む

はずすときは、バックル A の解除ボタンを押して解除します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 分離・格納のしかた（サードシート中央席＊）

バックル A の解除ボタンを押す

メカニカルキー、またはプレート A をバックル B に挿し込む

シートベルトを分離・格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

プレートA、Bを重ねてホルダーに格納する

もとにもどすときは、逆の手順でプレートを取り出し、バックル B にプレート B を挿し込みます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ シートベルトの高さ調節（フロント席・セカンドシート外側席）

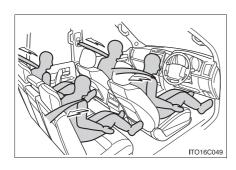
ITI13C192

1 ボタンを押しながら下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシートの外側席）

ITO16C049

前方から強い衝突を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロントシート）

レーダーセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

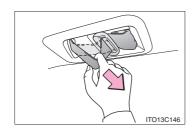
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 293）

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停車や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

ITY13C059

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 82)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■サードシート中央席のシートベルトが引き出せないときは*

シートベルトとホルダーのあいだに指を入れ、ベルトを矢印の方向に強く引いてから離すと引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 139)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 82)

■シートベルトプリテンショナーについて

●シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

●助手席に乗員がいないと、助手席シートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席シートベルトプリテンショナーが作動することがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトはひとつにつき一人で使用する
  お子さまでもひとつのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート*に座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- サードシート中央席*のシートベルトを使用するときは、プレート B とバックル B を結合してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**助手席シートベルトプリテンショナーについて**

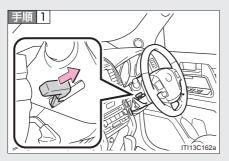
助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。

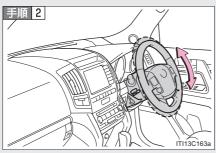
警告

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

注意

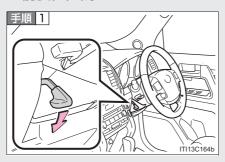
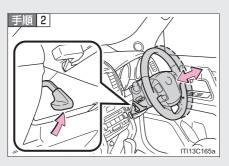
■サードシート中央席のシートベルトについて＊

サードシート運転席側の背もたれを前倒しするとき以外は、ベルトを分離しないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハンドル

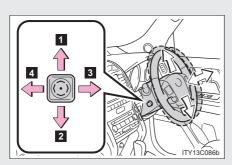
▶ マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング

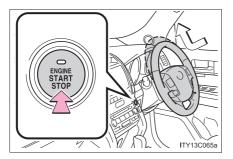
ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

■ 上下位置調整

ハンドルを持ち、チルトステアリングレバーを手前に引いて保持する

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、チルトステアリングレバーから手を離してください。

■ 前後位置調整

ハンドルを持ち、テレスコピックステアリングレバーを下げる

ハンドルを前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、テレスコピックステアリングレバーを上げてハンドルを固定してください。

▶ 電動チルト＆テレスコピックステアリング

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

1 上
2 下
3 手前
4 前方

オートアウェイ＆オートリターン機能*

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

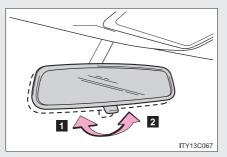
“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

知識

■ハンドル位置の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 73)

警告

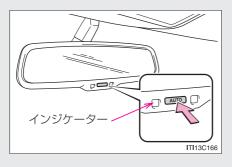
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

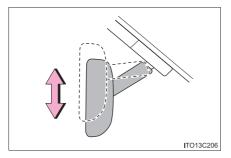
インナーミラー

▶ マニュアル防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

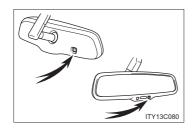
▶ 自動防眩ミラー

自動モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

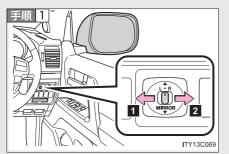
ITO13C206

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

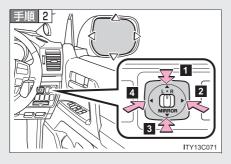
知識

■センサーの誤動作防止（自動防眩ミラー装着車）

ITY13C080

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

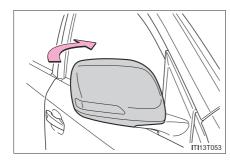
警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

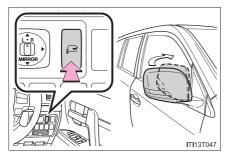
1 左

2 右

スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

▶ マニュアルタイプ

ミラー全体を手で押して格納する

▶ 電動タイプ

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 325）

■リバース連動機能*

ミラー選択スイッチが L または R の位置になっているときは、後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R のあいだ）にしてください。

■ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 73）

■自動防眩機能（自動防眩ミラー装着車）

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→P. 94）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

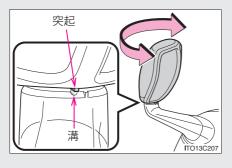
警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

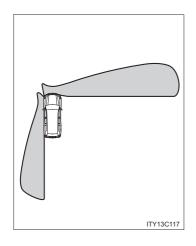
●ミラーの調整をしない

●ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置＊

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ITO13C207

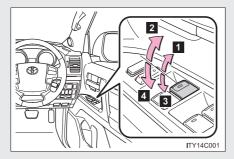
ミラーが動いてしまったときは、ミラーの突起とステーの溝の位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

知識

■ミラーに映るおよその範囲

ITY13C117

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■補助確認装置について

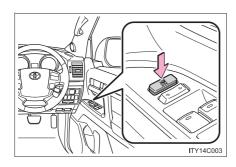
- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意しておこなってください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

ITY14C001

1 閉める（スイッチを途中で保持）

スイッチを離すまで、ドアガラスが閉まります。

2 自動全閉※

3 開ける（スイッチを途中で保持）

スイッチを離すまで、ドアガラスが開きます。

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

ITY14C003

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作をおこなってください。

- 車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作をおこなってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

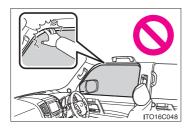
手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作をおこなっても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアキー連動ドアガラス開閉機能などを設定することができます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ **ドアガラスを開閉するときは**

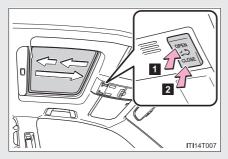
以下のことをお守りください。

● 運転席スイッチと他のドアスイッチを同時に逆方向に動かさない

● ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

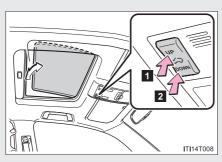
天井にあるスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンすることができます。

■ 自動開閉

1 開く

全開手前位置で止まります。全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン

1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■閉め忘れ警告表示（オプティトロンメーター装着車）

“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■閉め忘れ警告ブザー（アナログメーター装着車）

“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴ります。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■反転して閉じ切らないときは

下記の操作をおこなってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 CLOSE 側を押し続ける※

・スイッチを押し続けているあいだ、ムーンルーフが開閉作動を繰り返します。

・ムーンルーフが全開したら復帰操作が完了します。

●チルトダウンのときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 UP 側を押す
ムーンルーフをチルトアップ状態にします。

手順 3 スイッチから一度手を離し、もう一度 UP 側を押し続ける※

・スイッチを押し続けているあいだ、ムーンルーフが開閉作動を繰り返します。

・ムーンルーフが全開したら復帰操作が完了します。

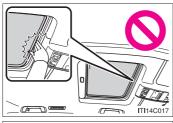
※ 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作をおこなっても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアキー連動ムーンルーフ開閉機能などを設定することができます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482)

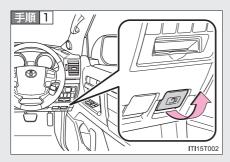
⚠ 警告

■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

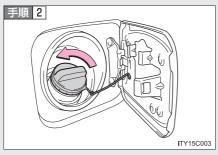
- ムーンルーフを開閉、またはチルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

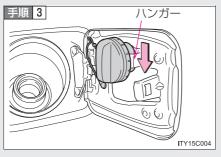
●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

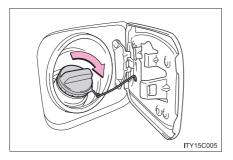
● ドアとドアガラスを閉め、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。(P. 112)

■ 給油口の開け方

給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

⚠ 警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車体などの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、帯電している人やものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

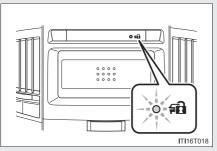
- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油をおこなうと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●その他、ガソリンスタンドで掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

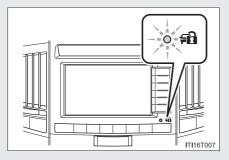
エンジンイモビライザーシステム

電子キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

▶ ナビゲーションシステム非装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、” エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

▶ ナビゲーションシステム装着車

※ G-BOOK mX Pro をご利用で、リモートセキュリティ装着のお客様は、お車が盗難にあった場合のお客様の要請により、エンジン始動・ステアリングロック解除を禁止することができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」をご覧ください。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われている
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているもしくは接近している

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

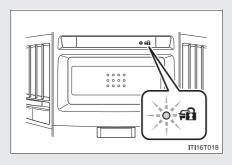
システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 39

オートアラーム

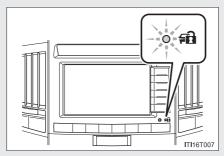
不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

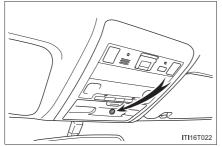
■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能を使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサー装着車（AX、ZX のみ）：侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサー装着車（AX、ZX のみ）：傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき
- バッテリーがはずされたとき

※ G-BOOK mX Pro をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

▶ ナビゲーションシステム非装着車

全ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

▶ ナビゲーションシステム装着車

■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレス機能を使用してドアまたはバックドアを解錠する
- エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

セキュリティカメラ*

ITI16T022

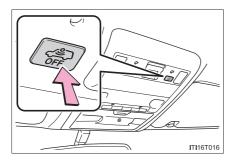
オートアラームが作動すると、カメラが車内の様子を撮影します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／G-BOOKオンラインサービス／ G-Security」をご覧ください。

侵入・傾斜センサー*

- 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。
- 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きの変化に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。
車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 侵入・傾斜センサーの作動を停止するには

"エンジン スタート ストップ" スイッチを OFF にし、侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

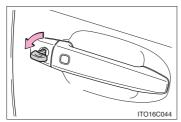
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入・傾斜センサー停止のメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを停止させるときは、そのつど設定をおこなってください。

知識

■ メンテナンスについて

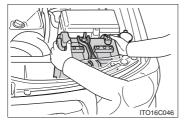
オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

●ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

■ **オートアラームの作動について**

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。

ITO16C044

●メカニカルキーにより、ドアを解錠したとき

ITI16T008

●車内に残った人が、ドアやバックドア、ボンネットを開けたとき

ITO16C046

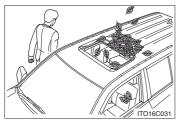
●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したとき、ドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■侵入・傾斜センサーの停止・復帰について*

●侵入・傾斜センサーを停止しても、オートアラームは作動します。

●侵入・傾斜センサーを停止したあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すかスマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能による解錠操作をおこなうと、侵入・傾斜センサーが復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

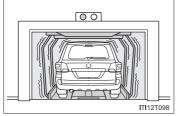
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■侵入センサーの検知について*

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

ITI16T010

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

ITO16C031

●ドアガラスやムーンルーフ*などが開いている場合
以下のものを検知することがあります。

・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き

ITI16T024

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

ITI12T098

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

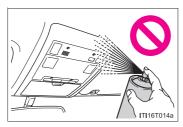
ITI16T011

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■傾斜センサーの検知について*

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

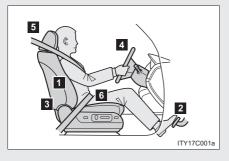
⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

ITI16T013a

●センサーの穴は塞がないようにしてください。

ITI16T014a

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 55）

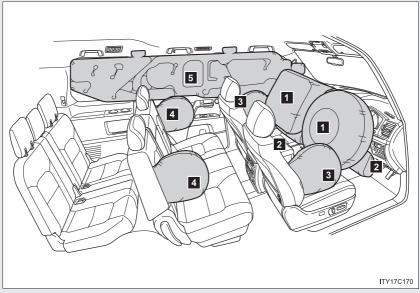
2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 55）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする (→ P. 55)

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 91）

5 ヘッドレストの中央を耳の後方にする（→ P. 77）

6 シートベルトを正しく着用できる（→ P. 82）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

※イラストは 8 人乗り車で代表しています。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロントシート乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS サイドエアバッグ*
（セカンドシート外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

5 SRS カーテンシールドエアバッグ

- フロントシート乗員のおもに頭部への衝撃を緩和
- セカンドシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和
- サードシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和*

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

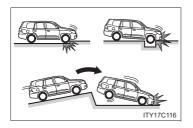
●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント・セカンドシート、フロントピラー、ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

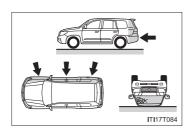
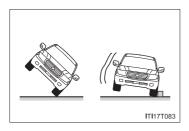
●SRS カーテンシールドエアバッグは、横転時も作動します。

■衝突以外で作動するとき

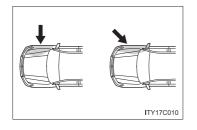
以下のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

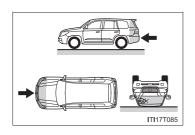
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

SRS カーテンシールドエアバッグは、以下のような状況で作動する場合があります。

●車両が大きく傾いたとき

●車両が横すべりし縁石等に衝突して強い衝撃があったとき

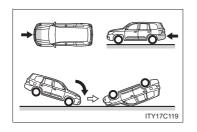
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

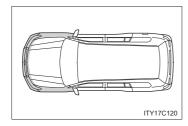
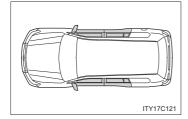
ITY17C010

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

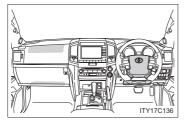
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

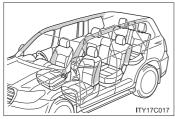
ITI17T085

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、縦方向への転覆、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

ITY17C119

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 縦方向への転覆

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

ITY17C120

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITY17C121

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITY17C136

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

ITY17C017

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート*に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 149)

ITY17C020a

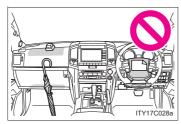
●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

ITI17C174

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■SRS エアバッグについて

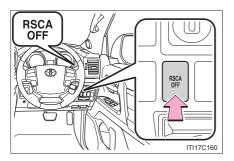
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●サイドガラスに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ステアリングパッド・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●ドア・フロントガラス・サイドガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コートフック*にハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラー・センターピラーガーニッシュ部に傷が付いていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席SRS エアバッグが作動しないことがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の不適切な修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー･フロントバンパー･車両客室側面部の不適切な修理や改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

RSCA OFF スイッチの使い方

ON ／ OFF（約 2 秒長押し）

OFF にすると RSCA OFF 表示灯が点灯します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■スイッチをご使用いただきたいとき

レジャー的なオフロード走行時、運転者の意志によって車両が大きく傾くことが予想される場合、RSCA システムを OFF にしてください。

■RSCA OFF 表示灯が点灯しているときの作動

● 車両の横転・転覆時に、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動しません。

● 車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

警告

■通常走行時は

スイッチを OFF にしないでください。
お守りいただかないと、事故が起きたときなどに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0^{+}　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 3 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ITY17C069

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ITY17C070

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ ジュニアシート

ITY17C071

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）				
	フロントシート	セカンドシート		サードシート（8 人乗り車の場合）	
	助手席	左右席	中央席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U	U	U
0^{+}（13kg まで）	×	U	U	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	U	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置 セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO baby	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO baby	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシート*に乗せて車のシートベルトを使用してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

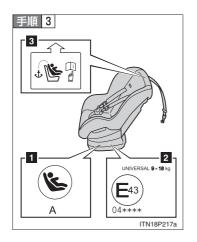
■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 142）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 143）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

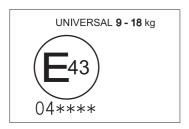
（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

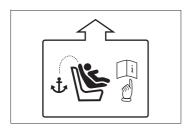
手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 144）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 149）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げ、最も高い位置にする

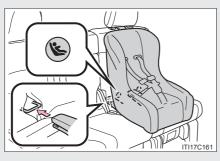
●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

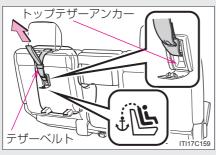
キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

■**子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

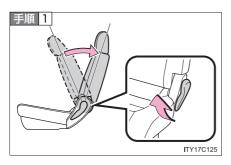
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート＊に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

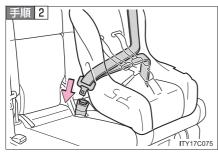
ITY17C072

シートベルトによる取り付け
（→P. 150）

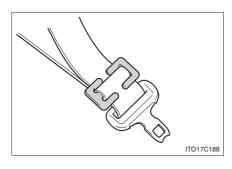
ITI17C161

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→P. 151）

セカンドシート外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）

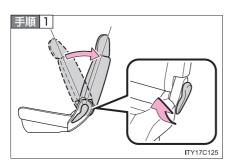
ITI17C159

トップテザーアンカー
（→P. 151）

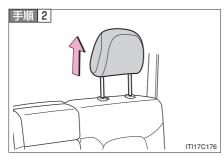
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート外側席に装備されています。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

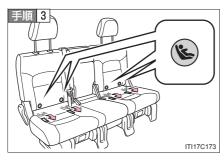
シートベルトで固定する

背もたれの角度を調整する

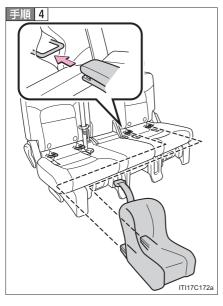
レバーを引いて、いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。(→P. 58)

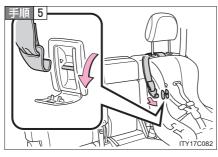
チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

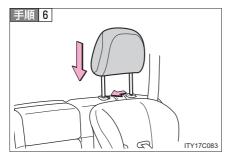
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備っていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する

レバーを引いて、いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。

ヘッドレストをいちばん上まで上げる

カバーをめくり、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

ヘッドレストをいちばん下まで下げる

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する

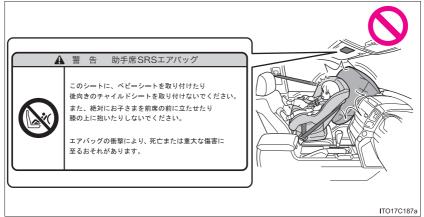
⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停車の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してセカンドシートまたはサードシート*に取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

ITY17C063

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

ITY17C095a

●ISOFIX　対応チャイルドシート固定専用バーを使用してチャイルドシートをセカンドシート運転席側に取り付けたときは、セカンドシート中央席に座らないでください。腰部ベルトが腰骨の上になったりベルトがたるむなど、シートベルトの効果が十分発揮できず、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 169）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 173）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 179）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 173）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 179）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 173）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、エンジンを停止する

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易におこなうことができます。（→P. 258）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

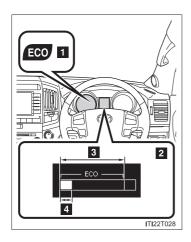
以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■エコドライブインジケーターについて

●環境に配慮したアクセル操作をしているかどうかを確認できます。
バー表示がエコ運転の範囲内にあり、エコドライブインジケーターランプが点灯しているとき、環境に配慮したエコ運転中であることを示しています。

1 エコドライブインジケーターランプ（→P. 145）

2 エコドライブインジケーターゾーン表示*

3 エコ運転の範囲

4 現状のアクセル開度

アクセル操作に連動してバー表示が変化します。
バー表示がエコ運転の範囲をこえると、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側部分が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。

●エコドライブインジケーターは、次の条件のときに作動します。

・シフトポジションが D で走行中
・セカンドスタートモードまたはパワーモード（→P. 161）を使用していないとき
・車速が約 100km/h 以下のとき
・クロールコントロールを使用していないとき

●エコドライブインジケーターランプの作動 / 非作動を設定できます。（→P. 411）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**発進するときは**

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし、事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

■**運転するときは**

● 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

● 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 474を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P. 173)

● ハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

● 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

● シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 4-Wheel AHC & AVS装着車で渡河走行をするときは、車高をHI(ハイ)モードに切り替えてから車高制御を停止させ、30 km/h以下で走行してください。
お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P. 239)

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中は空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを停止し施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●トランスファースイッチを操作した際、L4作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切り替えが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。(表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります)
この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。
必ず、トランスファーの切り替えを完了させてください。

警告

■**駐車するときは**

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**ブレーキをかけるときは**

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また、制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

⚠ 警告

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 452 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

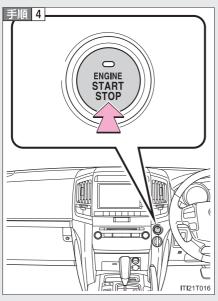
大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

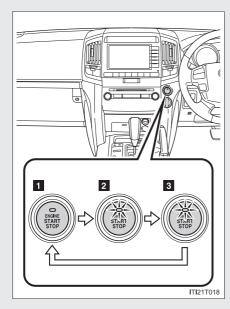
- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

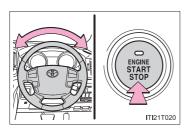
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります）

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してください。

マルチインフォメーションディスプレイ*にメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 115)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 34

■電子キーが正常に働かないときは

→P. 465

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 39

■ご留意いただきたいこと

→P. 35

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 474)

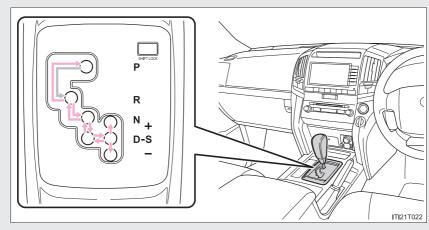
ただし、緊急時以外は走行中に “エンジン スタート ストップ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■**エンジンを始動するとき**

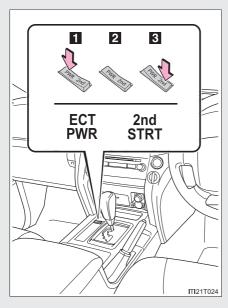
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■**“エンジン スタート ストップ” スイッチの操作について**

“エンジン スタート ストップ” スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

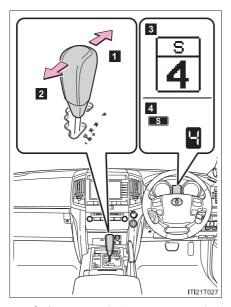
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2 (→P. 175)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギア段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて以下のモードを選択できます。

1. パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）
2. 通常走行モード
3. セカンドスタートモード（雪道など、すべりやすい路面での発進・走行）

通常走行モードにもどすときは 2nd をもう一度押します。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーをSの位置にして、シフトレバーを操作します。

1 シフトアップ
2 シフトダウン
3 オプティトロンメーター装着車
4 アナログメーター装着車

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 レンジまたは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 177)

■ シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■S モード

- 5 レンジ以下のとき、シフトレバーを＋側へ保持すると、6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッション保護のため、自動的にシフトレンジアップします。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき*

エンジンブレーキを目的にSモード走行中に5または4にシフトダウンしても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P. 212、216)

■セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 463

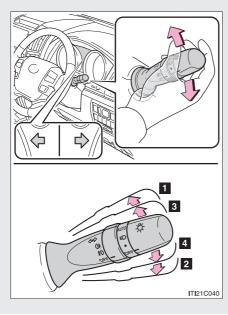
■シフトレバーを S にしても、S 表示灯が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます）

■NAVI・AI-SHIFT について*

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

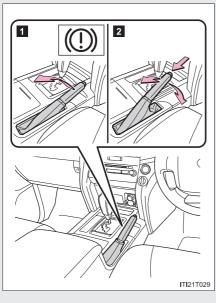
2 右折

3 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキを解除する

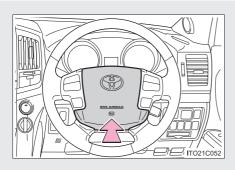
レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

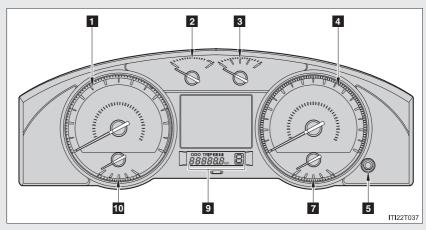
→P. 302

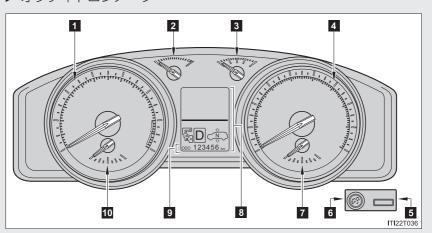
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 426

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] の周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。（→P. 91）

計器類

▶ アナログメーター

▶ オプティトロンメーター

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 表示切り替えスイッチ

オドメーター／トリップメーター画面の切り替えができます。

6 メーター照度調整ダイヤル (オプティトロンメーター装着車)

メーター照明の明るさを調整できます。

7 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

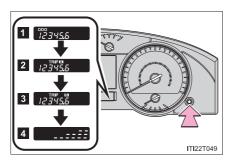
8 マルチインフォメーションディスプレイ (オプティトロンメーター装着車)

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 192)

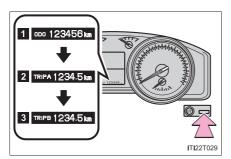
9 オドメーター・トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A･トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

10 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

表示切り替え、トリップメーターリセットスイッチ

▶ アナログメーター

スイッチを押すごとに以下のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※1

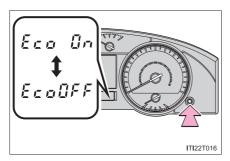
3 トリップメーター B※1

4 メーター照度調整画面※2

※1押し続けると 0 にもどります。

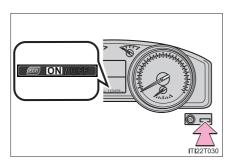
※2メーター照明が点灯しているとき、画面が表示されます。スイッチを押し続けると照度を調整できます。

▶ オプティトロンメーター

スイッチを押すごとに以下のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※

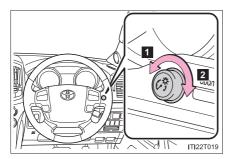
3 トリップメーター B※

※押し続けると 0 にもどります。

エコドライブインジケーターランプのカスタマイズ

エコドライブインジケーターランプは、作動 / 非作動を設定する事ができます。

手順 1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを5秒以上押すとカスタマイズ画面が表示されます。

▶ アナログメーター

▶ オプティトロンメーター

手順 2 表示切り替えスイッチを押して ON/OFF を選択する。

手順 3 表示切り替えスイッチを 2 秒以上押すと設定が完了します。

メーター照度調整ダイヤル（オプティトロンメーター装着車）

メーター照明の明るさを調整できます。

1 暗くなる

2 明るくなる

知識

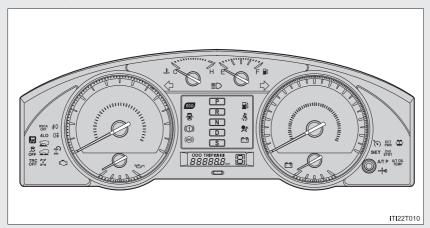
■メーターディスプレイの作動条件（オプティトロンメーター装着車）

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

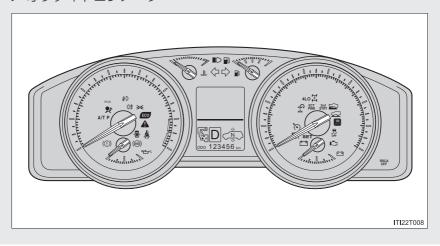
注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

● タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

● 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 470）

■走行中の注意

● エンジン回転中に電圧計が 19V 以上、または 9V 以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

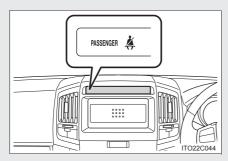
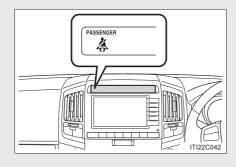
● エンジン回転中に油圧計が作動しないときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下するときや、エンジンオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯 / 警告灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての表示灯 / 警告灯を示しています。

▶ アナログメーター

ITI22T010

▶ オプティトロンメーター

ITI22T008

▶ センターパネル（ナビゲーションシステム非装着車）

▶ センターパネル（ナビゲーションシステム装着車）

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯(→P. 178)

ハイビーム表示灯(→P. 199)

※2
尾灯表示灯(→P. 199)

フロントフォグランプ表示灯*(→P. 202)

リヤフォグランプ表示灯*(→P. 202)

クルーズコントロール表示灯*(→P. 212, 216)

※1
（点滅）
スリップ表示灯(→P. 286)

※1
クロールコントロール作動表示灯(→P. 255)

※1
RSCA OFF
RSCA OFF 表示灯(→P. 138)

クルーズコントロールセット表示灯(→P. 212, 216)

マルチテレインセレクト表示灯*(→P. 261)

ECT PWR
ECT PWR 表示灯(→P. 174)

2nd STRT
2nd STRT 表示灯(→P. 174)

※1
OFF
VSC OFF 表示灯(→P. 288)

L4 作動表示灯(→P. 249)

センターデフロック作動表示灯(→P. 249)

※3
シフトポジション表示灯(→P. 173)

車間制御モード表示灯*(→P. 216)

※3
TRC OFF
TRC OFF 表示灯*(→P. 287)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

PCS

(点灯または早い点滅)

PCS 警告灯* (→P. 293)

※1

エコドライブインジケーターランプ (→P. 160)

ターンアシスト機能表示灯 (→P. 255)

※1 作動確認のために“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 オプティトロンメーター装着車

※3 アナログメーター装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 426)

(点滅)

※1 ※3 ※3 ＊※1 ※1

※1 作動確認のために"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

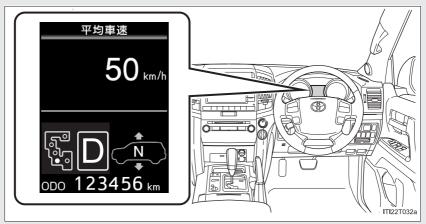
※2 オプティトロンメーター装着車

※3 アナログメーター装着車

※4 ナビゲーションシステム装着車

※5 ナビゲーションシステム非装着車

※6 "エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に、半ドア警告表示が表示されます。(→P. 433)

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ*

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関するさまざまな情報を表示します。

● シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P. 173)

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。

● トリップインフォーメーション (→P. 194)

航続可能距離や燃費など、走行に関する各種の情報を確認できます。

● スピードメーター (→P. 194)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

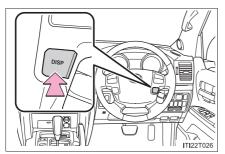
● ルート案内表示* (→P. 194)

● レーダークルーズコントロール の情報表示* (→P. 216)

レーダークルーズコントロール使用時、車間モードや警告画面などの情報が自動で表示されます。

● クリアランスソナー＆バックソナー距離表示* (→P. 214)

クリアランスソナー＆バックソナーの使用時、車両各部のセンサーが障害物を感知すると、自動で表示されます。

● 4-Wheel AHC 表示* (→P. 239)

● マルチテレインセレクト表示* (→P. 261)

● クロールコントロール表示 (→P. 255)

● フロントタイヤ方向表示 (→P. 194)

● 警告メッセージ (→P. 433)

車両についてお知らせしたい事項が発生したとき、警告の内容などが自動で表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切り替え

表示を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

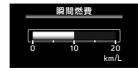
表示項目

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ 3 段階に切りかわります。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際は“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてください。万一、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 給油後平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費 & エコドライブインジケーターゾーン表示（→P. 160）

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費の表示中に DISP スイッチを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速の表示中に DISP スイッチを押し続けます。

■ スピードメーター

車速を表示します。

■ ルート案内表示設定画面*

ルート案内表示の ON/OFF を設定できます。

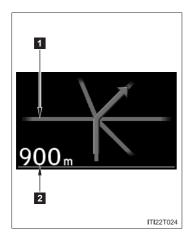
ルート案内表示設定画面表示中にDISPスイッチを 1 秒以上押すと設定が変更されます。

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■システムチェック表示

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため「LAND CRUISER」と表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

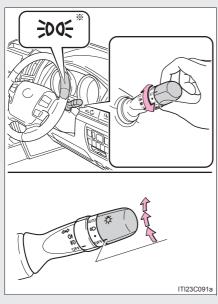
- 給油後平均燃費
- 平均燃費
- 平均車速

■ルート案内表示について

ルート案内表示は、ナビゲーションシステムの目的地案内設定をしているときに表示されます。分岐する交差点に近づくと、分岐までの距離、分岐方向が表示されます。

1 分岐方向

2 分岐までの距離

ルート案内表示の形状は、実際と異なる場合があります。

警告

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ランプスイッチ

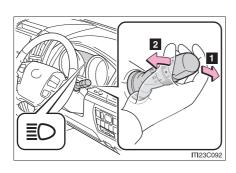
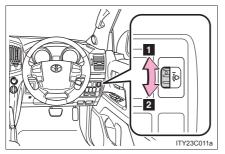
自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

● 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明（アナログメーターのみ）を点灯

※オプティトロンメーター装着車は、尾灯表示灯が点灯します。

上記ランプとヘッドランプを点灯

AUTO ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする

1 ランプ点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

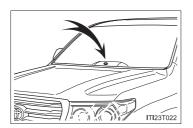
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の重量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置		
乗員	荷物	GX	AX	ZX
運転者	なし	0	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0	0
運転者と助手席乗員、および、サードシート* に 3 名乗車	なし	1	1.5	0.5
全乗員	なし	1	2.5	0.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3	3	0.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5	3.5	0.5

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ライトセンサー

ITI23T022

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

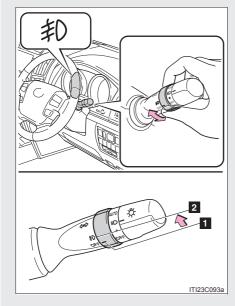
■ランプ消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

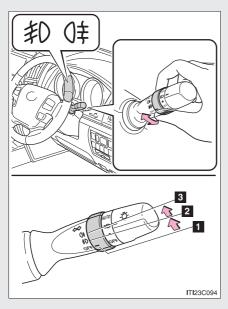
■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。
（リヤフォグランプ＊はフロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます）

▶ フロントフォグランプスイッチ

1 消灯

2 フロントフォグランプ点灯

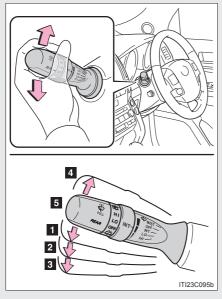
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

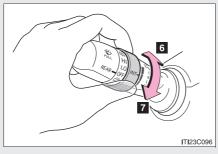
▶ **フロント&リヤフォグランプスイッチ**

1 消灯

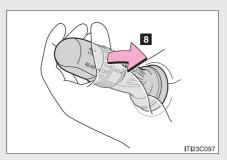
2 フロントフォグランプ点灯

3 フロント&リヤフォグランプ点灯

手を離すと の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

▶ 間欠作動調整式ワイパー

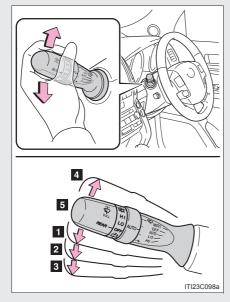
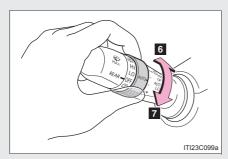
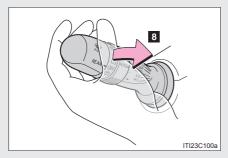
INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

ITI23C095b

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）
5 停止（OFF）

ITI23C096

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）
7 間欠ワイパーの作動頻度（増）

ITI23C097

8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

▶ **雨滴感知式ワイパー**

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

ITI23C098a

1 雨滴感知オート作動（AUTO）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 停止（OFF）

6 雨滴センサーの感度調整(低)

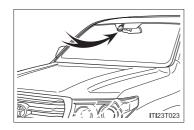
7 雨滴センサーの感度調整(高)

8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■AUTO 作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

● “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

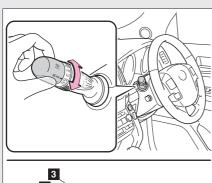
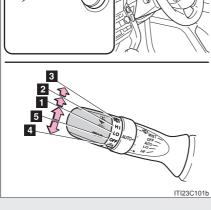
■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。
ウォッシャー液量を点検してください。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー(リヤ)

ITI23C101b

1 間欠作動(LO)

2 通常作動(HI)

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(ZX のみ)

5 停止(OFF)

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■液だれ防止機能(ZX)

ウォッシャー液を出すと、数秒後に液だれ防止としてワイパーがもう 1 度作動します。

■車速切り替え機能（ZX）

HI 選択時は、走行中は通常作動をおこない、停車すると間欠作動に切り替わります。

■リバース連動機能（ZX の雨滴感知式ワイパー装着車）

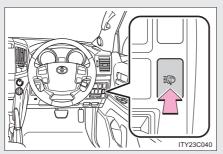
LO または OFF 選択時は、フロントワイパーが作動中またはフロントワイパーの作動停止から約 17 秒以内のとき、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■販売店で設定可能な機能

液だれ防止機能などを変更できます。(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482)

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

スイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。
ウォッシャー液量を点検してください。

■ノズルがつまったときは

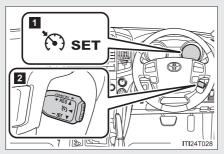
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー*

ウォッシャー液を噴射して、ヘッドランプを洗浄します。

スイッチを押すと、ヘッドランプクリーナーが 1 回作動します。

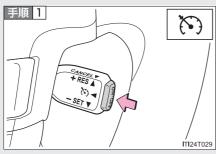
知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

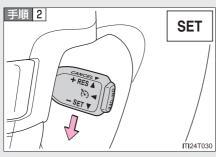
■ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール*

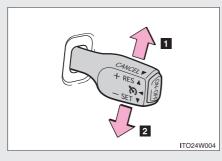
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 表示灯

2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再びスイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

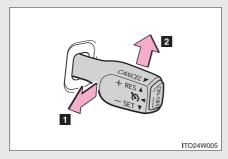
■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

ITO24W004

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整　：レバー操作するごとに約 1.6 km/h

調整　：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

ITO24W005

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D、または S モードの４レンジ以上のとき設定できます。

●速度は約 40 ～ 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センターデフロックスイッチ操作後、約 5 秒以上切り替え中が続いた

■マルチインフォメーションディスプレイ*に“クルーズシステムチェック”が表示されるかクルーズコントロール表示灯が黄点灯したとき

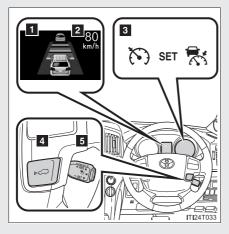
ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

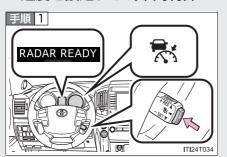
警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

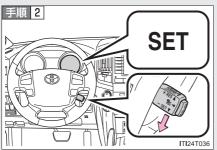
■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の速度変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

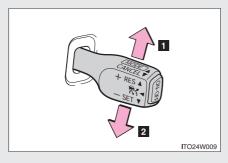
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1. ディスプレイ
2. 設定速度
3. 表示灯
4. 車間距離切りかえスイッチ
5. レーダークルーズコントロールスイッチ

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 速度を設定する（車間制御モード）

“ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

車間制御モード表示灯が点灯します。

OFF にするには再度“ON-OFF”スイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

ITO24W009

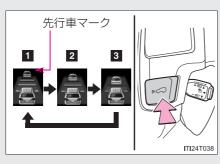
1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整で設定速度を変更することはできません。

大幅調整：レバーを保持する間、設定速度を調整できます。

定速制御モード（→P. 222）では、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

大幅調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更する（車間制御モード）

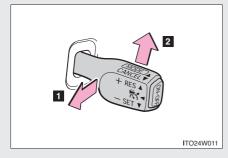
ITI24T038

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえる

1 長い

2 中間

3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

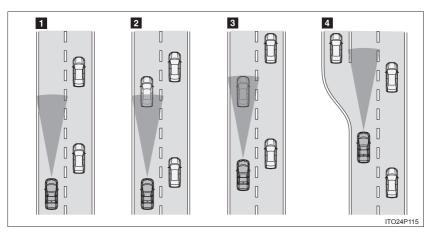
次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 218)
(80km/h で走行している場合)
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

■ 制御を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：
設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

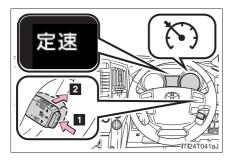
3 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：
設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

1 “ON-OFF”スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度“ON-OFF”スイッチを押します。

2 定速制御モードに切りかえる（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度をかえる：→P. 218

制御を解除する・復帰させる：
→P. 219

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D または S の4レンジ以上のとき設定できます。

●速度は約 50km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定速度以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき）

●走行モードをセカンドスタートモードにセットした

●センターデフロックスイッチ操作後、約 5 秒以上切り替え中が続いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

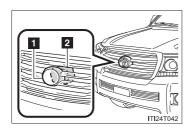
次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
このとき、設定速度は消去されます。

●速度が約 40km/h 以下になった
このとき、設定速度は消去されます。

●VSC が作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー
2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告表示・警告ブザーについて

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告表示・警告ブザーで注意をうながします。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ON-OFF”スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では設定速度以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 警報がひんぱんに鳴るとき
- 車両けん引時

警告

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 221）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

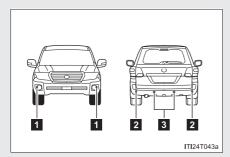
- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- ●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- ●先行車が急ブレーキをかけた場合

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

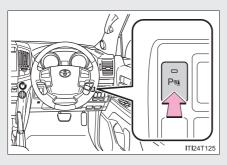
- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クリアランスソナー*

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

■ センサーの種類

1 フロントコーナーセンサー
2 リヤコーナーセンサー
3 バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ

ON ／ OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯します。
OFF にするには再びスイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

1 フロントコーナーセンサー作動表示

2 リヤコーナーセンサー作動表示

3 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示（ナビゲーションシステム装着車）

1

2

ITI24T111J

障害物を感知すると自動的に表示されます。

1 バックガイドモニター・マルチテレインモニター非表示時

表示されないように設定することができます。(→P. 235)

2 バックガイドモニター・マルチテレインモニター表示時

画面上に簡略表示されます。
(左の画面はバックガイドモニターの場合です)

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	モニター画面	
			割り込み表示
フロント：50cm ～ 37.5cm リヤ：60cm ～ 45cm	（点灯）	（点灯）	（点滅）
フロント：37.5cm ～ 25cm リヤ：45cm ～ 30cm	（点灯）	（点灯）	（速い点滅）
フロント：25cm リヤ：30cm 以下	（点滅）	（点灯）	（点灯）

■ バックセンサー

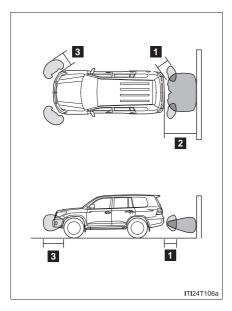
障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	モニター画面（割り込み表示）
150cm ～ 80cm	（点灯）	（遅い点滅）
80cm ～ 65cm	（点灯）	（点滅）
65cm ～ 50cm	（点灯）	（速い点滅）
50cm 以下	（点滅）	（点灯）

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内をおこないます。

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が以下のとき、ブザーは断続音 “ピピピ” から連続音 “ピー” になります。
  - フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 25cm 以下
  - リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30cm 以下
  - バックセンサーが感知した障害物との距離が 50cm 以下
- 複数のソナーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
  ただし、感知した障害物のどちらかまたは両方が上記の距離より近付くと、ブザーは断続音“ピピピ”と連続音“ピー”を繰り返します。
- ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。(→P. 236)

障害物を感知できる範囲

■1 約 60cm

■2 約 150cm

■3 約 50cm

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状･条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

クリアランスソナーの設定（ナビゲーションシステム装着車）

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする

1 ブザー音量設定

2 画面表示の ON・OFF

2 画面表示・ブザータイミング

設定変更したら「完了」をタッチする。

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF

画面内の **ソナー表示なし** にタッチする

● タッチすると作動表示灯が点灯します。再びタッチすると作動表示灯が消灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の 切替え にタッチする

● タッチするごとに、感知範囲が「遠」(緑色、約 150cm 以内)と「近」(黄色、約 60cm 以内)に切り替わります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・"エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッションONモードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・"エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッションONモードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ます。
(→P. 433)

⚠警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナー＆バックソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

⚠ 警告

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

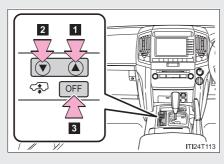
●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

⚠ 注意

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

4-Wheel AHC（アクティブハイトコントロール）*

4-Wheel AHC は、走行の状況に応じて車高を HI（ハイ）モード、N（標準）モード、LO（ロー）モードの 3 つから選択することができます。

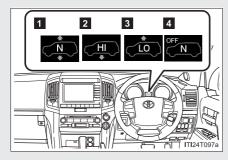
■ 車高切り替えスイッチ／車高制御 OFF スイッチ

1 “▲”（車高上昇）スイッチ

2 “▼”（車高下降）スイッチ

3 車高制御 OFF スイッチ

車が停止しているときにスイッチを押すと、ハイトコントロール OFF モードになり、車高制御が停止されます。もう一度スイッチを押すと、車高の調整ができるようになります。

■ マルチインフォメーションディスプレイ

1 N（標準）モード

マルチインフォメーションディスプレイに表示される [上矢印]、[下矢印] の矢印は、現在の車高から矢印の方向への調整ができることを示しています。

2 HI（ハイ）モード

3 LO（ロー）モード

4 ハイトコントロール OFF モード

ハイトコントロールOFFモードのとき、“▲”（車高上昇）や “▼”（車高下降）スイッチを押しても車高はかわりません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車高モード

車高モードは、車高切り替えスイッチや車高制御 OFF スイッチを操作することで以下の表のように切り替わります。

<table>
<tr><th rowspan="2">現在の車高モード</th><th colspan="2">操作するスイッチ</th></tr>
<tr><th>▼</th><th>▲</th></tr>
<tr><td>HI（ハイ）モード</td><td>N（標準）モード</td><td>現在のまま</td></tr>
<tr><td>N（標準）モード</td><td>LO（ロー）モード</td><td>HI（ハイ）モード</td></tr>
<tr><td>LO（ロー）モード</td><td>現在のまま</td><td>N（標準）モード</td></tr>
<tr><td>ハイトコントロール OFF モード</td><td colspan="2">現在のまま</td></tr>
</table>

■ HI（ハイ）モード

N（標準）モードと比べ、フロントの車高が約 50mm、リヤの車高が約 60mm 高くなります。

● 凹凸のある路面や渡河走行するときに適しています。

● HI（ハイ）モードは、車速が約 30km/h 以下のときに選択できます。

■ N（標準）モード

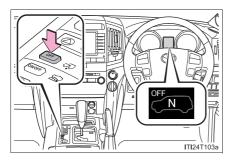
標準車高です。一般的な走行に適しています。
高速走行時は、自動的にフロントの車高が約 20mm、リヤの車高が約 15mm 低くなり、優れた空力特性や走行安定性を確保します。車速が低くなると、自動的に標準車高にもどります。

■ LO（ロー）モード

N（標準）モードと比べ、フロントの車高が約 60mm、リヤの車高が約 40mm 低くなります。

● 車への乗り降りや、荷物の積み降ろしが容易になります。

● LO（ロー）モードは車速が約 12km/h 以下のときに選択できます。車速が約 12km/h を超えると、自動的に N（標準）モードに移行します。

車高モード切り替え条件

車速により選択できない車高モードがあります。以下の表を参照してモードを切り替えてください。

※トランスファースイッチが L4 のときの車高モードの切り替えは、下記の表と異なる場合があります。

○：選択可　×：選択不可

車両の状態	車高モード		
	LO（ロー）	N（標準）	HI（ハイ）
車速約 12km/h 以下	○	○	○
車速約 12km/h ～ 30km/h	×	○	○
車速約 30km/h 以上	×	○	×

車高制御の停止方法

停車中に車高制御 OFF スイッチを押す。

マルチインフォメーションディスプレイに "OFF" が表示されます。

車高制御の停止を解除するときは、スイッチを再度押します。

知識

■作動条件

●エンジンがかかっていること

●車高制御が停止されていない（ハイトコントロール OFF モードでない）こと

●すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっていること

■エンジン停止中の車高モードの切り替え

●車高が下降中にエンジンを停止した場合、下降を継続します。

●“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから約 30 秒間は、人が降りたり荷物を降ろしたりして車高が上がると、オートレベリング機能により車高が下がることがあります。

●エンジン停止中は、車高切り替えスイッチの操作は受け付けません。

■トランスファースイッチが L4 のときの車高モードの自動切り替え

トランスファースイッチが L4 で、車速が約 3km/h を超えて不整地を走行する場合は、自動的に車高が HI （ハイ）モードへ移行します。（平坦路では車高モードはかわりません）

■HI（ハイ）モードでの車高自動変更

●トランスファースイッチが H4 で車速が約 30km/h を超えたとき、車高は自動的に N（標準）モードへ移行します。

●トランスファースイッチが L4 で車速が約 40km/h を超えたとき、車高は N（標準）モードより約 25mm 高い位置まで移行します。車速が約 20km/h 以下になったら自動的に HI（ハイ）モードの位置へもどります。

■エクストラハイモード

HI（ハイ）モードでトランスファースイッチがL4、またはクロールコントロールが作動した状態のときに車がスタックすると、自動的にエクストラハイモードへ移行します。車高がHI（ハイ）モードより約20mm高くなります。

●HI（ハイ）モードにもどる条件

・車速が約10km/h以上になる
・トランスファースイッチをH4にする

●エクストラハイモードで“▼”（車高下降）スイッチを押すと、N（標準）モードへ移行します。

●エクストラハイモードはスイッチ操作による選択はできません。

■車高制御の停止について

●エンジンを停止しても、車高制御の停止状態は記憶されています。

●車高制御 OFF スイッチにより車高制御を停止しても、下記の車速を超えると、停止状態が解除されます。

・HI（ハイ）・LO（ロー）モード：車速約30km/h以上
・N（標準）モード：車速約80km/h以上

■オートレベリング機能

すべてのモードで乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるように車高が自動で制御されます。

■積載量について

●下記の積載量を越えた場合、車高切り替えスイッチを操作しても目的の車高にならないことがあります。

・HI（ハイ）モード：大人４名※＋約 270kg
・N（標準）モード：大人４名※＋約 370kg
※１名あたり 55kg とした場合

●N（標準）モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイに「LO」と表示されたとき、または HI（ハイ）モードで「LO」または「N」と表示されたときは、車両の積荷が重すぎることを示しています。この状態で走行するときは、十分に注意してください。積荷を降ろしても車高が上がらないときは、“▼”（車高下降）スイッチを押して一度車高を下げたあと、“▲”（車高上昇）スイッチを押して車高を上げてください。
それでも車高が上がらないときは、一度エンジンを停止し、再始動後、車高切り替えスイッチによる再操作をおこなってください。

■運転中に停車したとき

オートレベリング機能が作動し車高がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■車高がかわらないときは

積荷が重すぎる場合、車高を上げることができません。また、車両下部が路面と接触している場合、車高を下げることができません。

■4-Wheel AHC が作動しないとき

●車両が停止しているときに、ブレーキペダルを数秒間踏んだとき

●車高の切り替えをひんぱんにおこなったとき

●サスペンションフルードの油温が約－ 30 ℃以下のとき

●サスペンションに氷が付いているとき

●サスペンションが伸びきるような凹凸の激しい路面を走行しているとき

●センターデフロック作動状態(→P. 249) で、ハンドルを約３ /4 回転以上まわしたとき

■寒冷時の取り扱い

●サスペンションフルードの油温が約－ 15 ℃以下になると、車高の調整に必要な時間が長くなります。

●サスペンションフルードの油温が約－ 30 ℃以下になると、4-Wheel AHC は作動しません。

・この場合、車高切り替えスイッチを押しても車高はかわりません。一度しばらく走行し、サスペンションフルードを通常の温度まで上げると、4-Wheel AHC が作動し、自動的に選択したモードの車高に調整されます。
・サスペンションフルードの油温が約－ 30 ℃付近のとき、4-Wheel AHC が作動しても車高が上がらないことがあります。この場合、しばらく走行したあとで、“▼”（車高下降）スイッチを押してから“▲”（車高上昇）スイッチを押し、車高を上げてください。

■駐停車について

●オフロード走行後、すぐにエンジンを停止して駐車する場合、車高が少し下がります。駐車時は、車両が下がった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

●長期間にわたって駐車する場合、気温の変化により車高がかわる場合があります。長期間駐車するときは、車高がかわった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

■プロペラシャフトの音

坂道での車高調整や、駐停車中にシフトレバーが P または N 以外で車高調整した場合、プロペラシャフトの伸縮により作動音が発生することがありますが、異常ではありません。

■4-Wheel AHC が故障したときは

●4-Wheel AHC が故障した場合、N（標準）モードが自動的に選択されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、修理を受けるまで 4-Wheel AHC を使用することができません。

●エンジンを停止して、再始動したときに警告が表示されなければ、システムは正常です。警告が表示されたままのときは、ただちにトヨタ販売店で修理を受けてください。

⚠警告

■車高モードの切り替え時の警告

車高を下げる前に車の下やまわりに人がいないこと、障害物がないことを確認してください。お守りいただかないと、車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■HI（ハイ）モードについて

このモードはオフロードなど悪路を走行するときのみ使用してください。重心が高くなるため、ハンドル・ブレーキ・アクセルなどを慎重に操作してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキアップ時やタイヤチェーンを取り付けるときは

車高制御を停止させてエンジンを停止してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■渡河走行するときは

車高を HI（ハイ）モードに切り替えてから車高制御を停止させ、30km/h 以下で走行してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■他車にけん引してもらうときは

4 輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高を N（標準）モードにしてから車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■脱輪したときは

車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ルーフラックに荷物を積んでいるときは

HI（ハイ）モードに切り替えないでください。重心が高くなるため、急旋回時など不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、RSCA システム（→P. 138）の誤作動につながるおそれがあります。
トヨタ純正アルミラックを装着している場合は、付属の取扱書をご覧ください。

注意

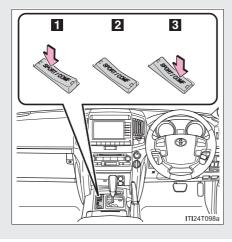
■高さ制限のある場所に駐車するときは

乗員が降りたときや積荷を降ろしたときは、通常より車高が高めになりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

■車高モードの切り替え時の注意

- LO（ロー）モードにしても、車が発進すると自動的にN（標準）モードになるため、高さ制限のある場所では注意してください。
- 凹凸のある路面では、LO（ロー）モードにしないでください。車が路面に接触し、損傷するおそれがあります。
- 車高の切り替えをひんぱんにおこなうと、ポンプが損傷するおそれがあります。車高を連続して切り替えるときは、数秒間待ってから次の切り替えをおこなってください。

AVS（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）*

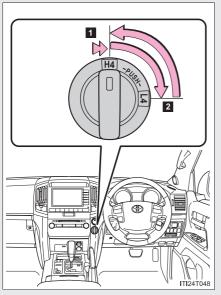
路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性を両立し、車両姿勢を良好な状態に保ちます。

1 COMFORT モード（やわらかめ）

ノーマルモードに比べてソフトな乗り心地になります。

2 ノーマルモード

通常走行に適しています。

3 SPORT モード（硬め）

スポーツ走行に適しています。ノーマルモードに比べて硬めの減衰力に自動的に切り替わります。

知識

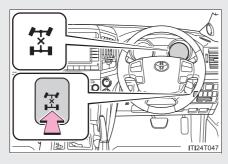
■モードについて

- 通常走行時はノーマルモードをおすすめします。
- 積載量が多いときや未舗装路を走行するときは、SPORT モードをおすすめします。
- トランスファースイッチが L4 のときは、減衰力切り替えスイッチの位置にかかわらず、オフロード走行に適した減衰力になります。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

フルタイム 4WD

トランスファースイッチおよびセンターデフロックスイッチを操作して駆動系の作動状態を切り替えます。

■ トランスファースイッチ

1 H4（ハイレンジ）

一般走行に適しています。通常はこの位置で使用します。

2 L4（ローレンジ）

悪路・氷雪路・砂地・泥地など、とくに大きな駆動力を必要とする走行時に適しています。

■ センターデフロックスイッチ

ぬかるみなどでスタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

センターデフロック状態になると、センターデフロック作動表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除されます。

トランスファーレンジの切り替え

■ H4 から L4 へ切り替え

手順 1 車両を完全に停車させる

手順 2 シフトレバーを N にする

手順 3 トランスファースイッチを押しながら右（L4）へまわす

L4 に切り替わると L4 作動表示灯が点灯します。点灯するまで他の操作をしないでください。

■ L4 から H4 へ切り替え

手順 1 車両を完全に停車させる

手順 2 シフトレバーを N にする

手順 3 トランスファースイッチを左（H4）へまわす

H4 に切り替わると L4 作動表示灯が消灯します。消灯するまで他の操作をしないでください。

知識

■ トランスファースイッチの使用条件

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが N にあるとき
- 車両が完全に停車しているとき

■ L4 作動表示灯について

H4 と L4 の切り替え作動中は、表示灯が点滅します。

■ すべりやすい路面を走行するときは

- 険しいオフロードを走行する場合、トランスファースイッチを L4、シフトレバーを S モードの 2 レンジにすることで、アクティブ TRC のブレーキ制御をより効果的に活用できます。
- スタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、最大の駆動力やエンジンブレーキを必要とする場合にはシフトレバーを S モードの 1 レンジにします。

■センターデフロックスイッチの使用条件

●“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

●車両の速度が 100km/h 以下のとき

■センターデフロック作動表示灯について

センターデフの切り替え作動中は、表示灯が点滅します。

■センターデフロックについて

●センターデフロックスイッチを操作後、表示灯が点滅したままのときや、センターデフロックを解除しても表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認して、加減速または後退をしてください。

●センターデフロック状態での急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。

■フルタイム 4WD の取り扱い

●4WD 車といっても万能車ではありません。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重におこない、常に安全運転を心がけてください。

●スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。

●急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。

●急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速は避けてください。

■L4 作動表示灯もしくはセンターデフロック作動表示灯が点滅したときは

●トランスファーレンジ切り替え時に L4 作動表示灯が点滅し続けたときは、車両を完全に停車しシフトレバーが N に入っていることを確認してから、もう一度トランスファースイッチを操作し直してください。

●トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切り替えが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）

この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切り替えを完了させてください。

切り替えを完了させるためには、車両を完全に停車しシフトレバーを N にして、切り替えが完了したこと（表示灯が点灯または消灯したこと）を確認してください。

●エンジンが極端に冷えているときは、トランスファーレンジが切り替わらないことがあります。エンジンが暖まってから、もう一度トランスファースイッチを操作してください。

以上を実施しても、L4 作動表示灯もしくはセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けたときは、エンジン・ブレーキ系統もしくはトランスファーの異常のおそれがあります。この場合、トランスファーレンジやセンターデフの切り替えはできません。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■渡河について

●4WD 車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。

・水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
・河川進入時は最徐行（5km/h 以下）してください
・河川に対し、直角または下流方向へ横断してください
・渡河途中での変速操作は避け、一気に渡りきってください

●渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスをおこなってください。

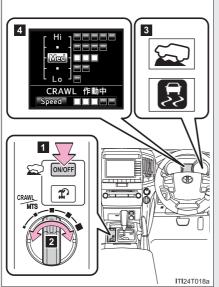
・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

警告

■走行中の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

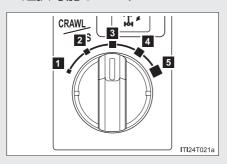
- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください
- 車両旋回中や車輪空転中は、トランスファースイッチ操作およびセンターデフロックスイッチ操作をおこなわないでください
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください

注意

■センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

乾燥した舗装路面では、必ずセンターデフロックスイッチを OFF にして走行してください。また、高速道路ではトランスファースイッチを H4 で走行してください。

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）

アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、凹凸の大きなオフロードを一定の低速度で走行でき、すべりやすい路面でのスリップや車輪の空転を最小限に抑え、安定して走行できます。

■ クロールコントロールスイッチ

1 ON ／ OFF スイッチ

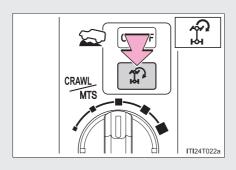
2 速度切り替えスイッチ

3 表示灯

作動中はクロールコントロール作動表示灯が点灯し、スリップ表示灯が点滅します。

4 マルチインフォメーションディスプレイ*

選択したモードがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 選択可能なモード

次の５つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。

＊：車両型式で異なる装備やオプション装備

2
運転するときに

<table>
<tr><th colspan="2">モード</th><th>路面状況</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ロー</td><td rowspan="2">岩石路や下り坂を走行するときなどに適しています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">ロー - ミディアム</td></tr>
<tr><td rowspan="2">モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">ミディアム</td></tr>
<tr><td rowspan="3">モーグル路・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ミディアム - ハイ</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ハイ</td></tr>
</table>

■ **ターンアシスト機能**

切り返し操作なしでは通過困難なタイトコーナーを走行するときに、一定の低速度を維持しながら、運転者のハンドル操作に応じて回頭性を向上させる制御を実施し、切り返し操作回数を低減します。

クロールコントロール作動中にターンアシストスイッチを押す

ターンアシスト表示灯が点灯します。

OFF にするには再度スイッチを押します。

クロールコントロール＆ターンアシスト機能を解除するときは

▶ クロールコントロール

クロールコントロール作動中に ON ／ OFF スイッチを押します。スイッチを OFF にすると、スリップ表示灯とターンアシスト表示灯（ターンアシスト機能使用時のみ）が消灯し、機能が完全に解除されるまでクロールコントロール作動表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ*にクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。
走行中にクロールコントロールを解除するときは、クロールコントロール作動表示灯が消灯する前に停車するか、とくに慎重に運転してください。

▶ ターンアシスト機能

ターンアシスト機能作動中にターンアシストスイッチを押します。スイッチを押すとターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイ*にターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

▶ クロールコントロール

●エンジンが回転しているとき

●シフトレバーが P、N 以外にあるとき

●トランスファースイッチが L4 にあるとき

●運転席ドアが閉まっているとき

▶ ターンアシスト機能

●クロールコントロールが作動しているとき

●センターデフをロックしていないとき

●アクセルとブレーキ操作をしていないとき

●シフトレバーが P、R、N 以外にあるとき

●ハンドル操作角度が大きいとき

■機能の自動解除

▶ クロールコントロール

次のいずれかの場合、ブザーが断続的に鳴り、クロールコントロールが自動的に解除されます。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅後、消灯し、ターンアシスト表示灯が消灯し（ターンアシスト機能使用時のみ）、マルチインフォメーションディスプレイ*にクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

●シフトレバーを P または N にしたとき

●トランスファースイッチを H4 にしたとき

●運転席ドアを開けたとき

▶ ターンアシスト機能

センターデフをロックしたとき、ブザーが断続的になり、ターンアシスト機能が自動的に解除されます。この場合、ターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイ*にターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

■機能制限

▶ クロールコントロール

●以下の場合は、下り坂を一定の速度で降りるようなブレーキ制御はできますが、上り坂を一定の速度で登るエンジン制御はできません。

・走行モードにセカンドスタートモードを選択したとき
・車速が約 10km/h を超えたとき

●以下の場合は、エンジン制御・ブレーキ制御とも一時的に機能を停止します。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅します。

・車速が約 25km/h を超えたとき

▶ ターンアシスト機能

以下の場合は、ターンアシスト機能を一時的に停止します。

●車速が約 10km/h を超えたとき

●シフトレバーを R にしたとき

■長時間の使用について

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、ブレーキシステムの異常過熱を招くため、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ*に異常を知らせる表示が出され、クロールコントロール表示灯が点滅後消灯し、クロールコントロールが一時的に作動できなくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。（この間の通常走行は可能です）

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、オートマチックトランスミッションシステムの異常過熱を招くため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイ*に異常を知らせる表示が出ることがあります。表示が消えるまで、安全な場所に停車してください。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

■作動音や振動について

- ●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ●クロールコントロールが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯します。（→P. 426, 433）

警告

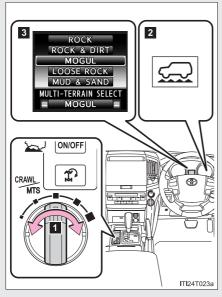
■クロールコントロール & ターンアシスト機能をお使いになる前に

クロールコントロール & ターンアシスト機能を過信しないでください。車両の限界性能を高めるものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■正しく作動しないおそれのある状況

以下の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

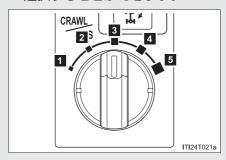
- ●極端な急勾配
- ●凹凸の激しい路面
- ●積雪路などのすべりやすい路面

注意

■ターンアシスト機能をお使いになる前に

ターンアシスト機能は、オフロード路面での回頭性を向上させる機能です。舗装された路面では制御の効果が十分発揮できない場合があります。

マルチテレインセレクト*

マルチテレインセレクトは、オフロードでの走破性を向上させるシステムです。

あらかじめ用意された 5 つのモードの中から、走行する路面状況に適したモードを選択することで、各状況に合わせてブレーキ制御が最適化されます。

1 マルチテレインセレクトモードセレクトスイッチ

2 マルチテレインセレクト表示灯

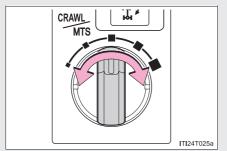
3 マルチインフォメーションディスプレイ

マルチテレインセレクトの作動状態や、路面選択状態などが表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 選択可能なモード

次の 5 つのモードから、オフロードの路面状況に合わせてモードを選択することができます。

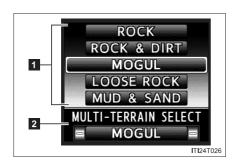
1 MUD & SAND
2 LOOSE ROCK
3 MOGUL
4 ROCK & DIRT
5 ROCK

モード		路面状況
1	MUD & SAND	泥濘路・砂地路・深雪路・ダート路などのすべりやすい状況やダート路に適しています。
2	LOOSE ROCK	土と動きやすい石が混じった、すべりやすい状況に適しています。
3	MOGUL	モーグル路など路面の凹凸の激しい状況に適しています。
4	ROCK & DIRT	モーグル路や岩石路など路面の凹凸の激しい状況に適しています。
5	ROCK	岩石路の走行に適しています。

■ 制御の開始条件

以下の条件をすべて満たしたとき、マルチテレインセレクト表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにモード選択画面が表示され、マルチテレインセレクトの制御を開始します。

- トランスファースイッチが L4 にあるとき
- アクティブ TRC と VSC を OFF にしていないとき
- クロールコントロールが OFF のとき

■ モードの切りかえ方

ITI24T025a

マルチテレインセレクト制御中にマルチテレインセレクトモードセレクトスイッチを操作してモードを選択する。

モードが確定すると、モード名が表示され制御が切りかわります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示について

ITI24T026

1 モード選択

マルチテレインセレクトのモードを表示します。

DISPスイッチを押すか各システムの状況により表示が切りかわります。

2 モード表示

選択されたモード名を表示します。

知識

■機能の自動解除

次のいずれかの場合、マルチテレインセレクト表示灯が消灯し、マルチテレインセレクトが自動的に解除されます。

- トランスファースイッチを H4 にしたとき
- アクティブ TRC と VSC を OFF にしたとき
- クロールコントロールを ON にしたとき

■トラクションが発生しにくいときは

タイヤのスリップ量は「ROCK」→「ROCK & DIRT」→「MOGUL」→「LOOSE ROCK」→「MUD & SAND」の順に大きくなるため、スリップが大きいときは「ROCK」側、スリップが小さいときは「MUD & SAND」側のモードへ切りかえることで走破性が向上します。

■スタックしたときは

トランスファースイッチと４ WD システムを切りかえてください。
切りかえについては、以下のページを参照してください。

- フルタイム４ WD（→P. 249）
- センターデフロック (→P. 249)

■マルチテレインセレクトが正常に作動しないときは

スリップ表示灯が点灯します。その場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC OFF 表示灯が点灯するかマルチインフォーメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示され、マルチテレインセレクトが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。
（この間の通常走行は可能です）

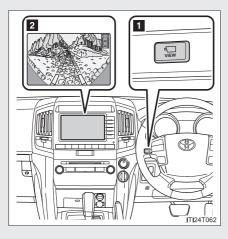
しばらくして、TRC OFF 表示灯かマルチインフォメーションディスプレイの表示が消えれば、マルチテレインセレクトが作動可能となります。

警告

■マルチテレインセレクトを使用するときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車両が損傷したり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- モードの選択は、勾配・すべり度合い・起伏などの状況によっては、必ずしも最適でない場合があります。(→P. 255)
- マルチテレインセレクトは車両の限界を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

■使用上の注意

マルチテレインセレクトは、オフロード走行時のみ使用してください。

マルチテレインモニター*

マルチテレインモニターは、低速で走行中に車両周辺の映像をディスプレイに表示し、車両周辺の状況を確認するのを補助し、オフロード走行を支援するシステムです。

● カメラスイッチを押すことで画面の表示、又はフロント画面・ワイドビューフロント＆サイドモニター画面・サイド前方同時表示画面・サイド後方同時表示画面・リヤ画面の映像を切りかえることができます。
（シフトレバーやトランスファーの条件により切りかえられるカメラが異なります）

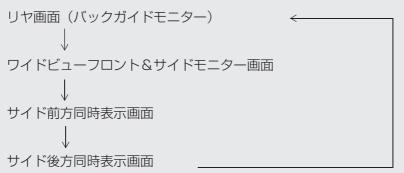
● フロント画面上に合成表示されるガイド線を参考にして、前方の障害物との距離や予想進路を確認しながら走行ラインを決めたり、ワイドビューフロント＆サイドモニター画面・サイド前方同時表示画面・サイド後方同時表示画面でタイヤ付近や側方にある障害物などを確認して、不意のスタックを未然に回避しながら、走行することができます。

1 カメラスイッチ
2 ディスプレイ

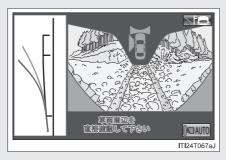
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 画面の切りかえ

● シフトポジションが D、S または N のとき

通常表示モード：カメラスイッチを押すと画面が表示される。

自動表示モード：自動的に画面が表示される。

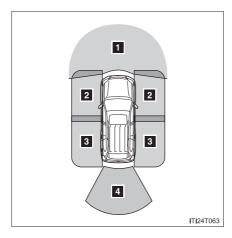
カメラスイッチを押すごとに画面が切りかわります。(トランスファーレンジにより、切りかわる画面が異なります。)

トランスファーレンジ	表示画面
H4	ワイドビューフロント＆サイドモニター画面 ↓ サイド前方同時表示画面 ↓ サイド後方同時表示画面 (→ ワイドビューフロント＆サイドモニター画面へ戻る)
L4	フロント画面 ↓ サイド前方同時表示画面 ↓ サイド後方同時表示画面 (→ フロント画面へ戻る)

● シフトポジションが R のとき

シフトポジションを R にするとリヤ画面（バックガイドモニター）が表示され、カメラスイッチを押すごとに画面が切りかわります。

■ 自動表示モード

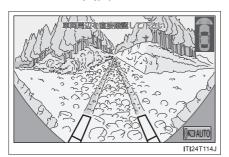
カメラスイッチ操作による画面切りかえに加え、車速またはシフト操作に応じて自動的に画面が切りかわるモードです。

ITI24T067aJ

フロントスクリーンまたはワイドビューフロント＆サイドモニター画面の AUTO をタッチする。

AUTO の表示灯が点灯します。

再び AUTO をタッチすると通常表示モードに戻ります。

各カメラの受け持つ範囲

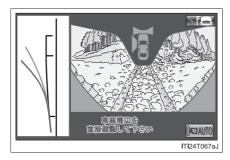
ITI24T063

1 フロント画面※
2 サイド前方同時表示画面※
3 サイド後方同時表示画面※
4 リヤ画面

※ワイドビューフロント＆サイドモニター画面の範囲です。（サイドの表示画面は、左側のみです。）

イラストは大まかなイメージを示したもので、実際に撮影される範囲とは異なります。カメラの撮影範囲については、P. 278 の記載を参照してください。

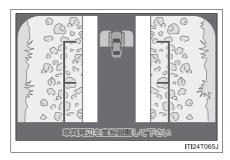
映像表示について

■ フロント画面

ITI24T114J

車両前方の映像を表示します。

前方付近の安全確認に使用します。
進行方向を決定する際に目安となるガイド線が合成表示されます。

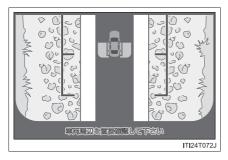
■ ワイドビューフロント＆サイドモニター画面

ITI24T067aJ

車両前方と側面の映像を表示します。

見通しの悪い交差点などの状況確認や左旋回時の安全確認の補助として使用します。

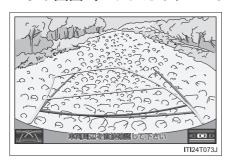
左旋回時にハンドル操作の目安となる進路線を表示することもできます。

■ サイド前方同時表示画面

ITI24T065J

車両側面（前方寄り）下方の映像を表示します。

車両の左右の映像が同時に表示されます。
タイヤ周辺や車両側面の障害物などの確認に使用します。
車幅のイメージと前輪の位置を示すガイド線が合成表示されます。

■ サイド後方同時表示画面

ITI24T072J

車両側面（後方寄り）下方の映像を表示します。

車両の左右の映像が同時に表示されます。

タイヤ周辺や車両側面の障害物などの確認に使用します。

車幅のイメージと後輪の位置を示すガイド線が合成表示されます。

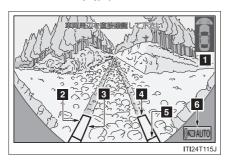
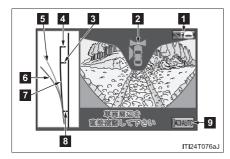
■ リヤ画面（バックガイドモニター）

ITI24T073J

車両後方の映像が表示されます。

バックガイドモニターの詳細については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

画面の見方

■ フロント画面

1 車両アイコン

フロント画面が表示されていることを示します。

2 軌跡線（外側）※

タイヤ外側が通る進路の目安を表示します。

3 軌跡線（内側）※

タイヤの内側が通る進路の目安を表示します。

4 距離目安線（黄）

車両の前端から約 1m 前方の位置を示します。

5 距離目安線（赤）

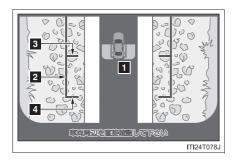
車両の前端から約 0.5m 前方の位置を示します。

6 AUTO スイッチ

自動表示モードを設定します。

軌跡線はハンドル操作に連動して変化します。

※クロールコントロールのターンアシスト機能作動中のとき、軌跡線を点線で表示します。この状態では、実際の進路と軌跡線で誤差が生じる場合があります。

■ ワイドビューフロント＆サイドモニター画面

1 進路表示切りかえスイッチ

進路表示モードを切りかえます。シフトポジションが R のときは、切りかえできません。

2 車両アイコン

ワイドビューフロント＆サイド画面が表示されていることを示します。

3 前輪接地線

前輪位置の目安を表示します。

4 車両前端表示

車両前端位置の目安を表示します。

5 予想進路線（黄）

ハンドル操作に連動した進路の目安を示す。最小回転予想進路線とともに表示されます。

6 最小回転予想進路線（青）

ハンドルをいっぱいまで操作して、もっとも小回りしたいときの予想進路の目安を示します。ハンドルが左側へ操作されている（直進状態から約90°以上）ときに表示されます。

7 車幅表示線（青）

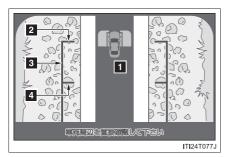
車幅の目安を表示します。（ドアミラーの幅も加算されて表示されます）

8 後輪接地線

後輪位置の目安を表示します。

9 AUTO スイッチ

自動表示モードを設定します。

■ サイド前方同時表示画面

1 車両アイコン

サイド前方同時表示画面が表示されていることを示します。

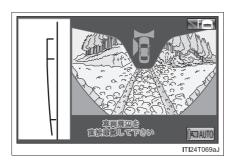
2 車両前端表示

車両前端位置の目安を表示します。

3 車幅表示線

車幅の目安を表示します。（ドアミラーの幅も加算されて表示されます）

4 前輪接地線

前輪位置の目安を表示します。

■ サイド後方同時表示画面

1 車両アイコン

サイド後方同時表示画面が表示されていることを示します。

2 車幅表示線

車幅の目安を表示します。（ドアミラーの幅も加算されて表示されます）

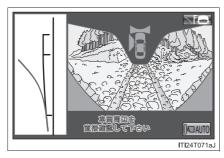
3 後輪接地線

後輪位置の目安を表示します。

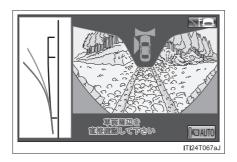
4 車両後端表示

車両後端位置の目安を表示します。

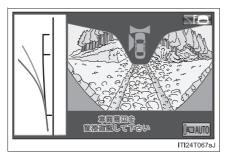
■ リヤ画面（バックガイドモニター）

別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

進路線表示モードについて（ワイドビューフロント＆サイドモニター画面）

▶ 進路線消去モード

ITI24T069aJ

車幅表示線が表示されます。

▶ 最小回転予想進路表示モード

ITI24T071aJ

進路線消去モードに最小回転予想進路線が追加されます。

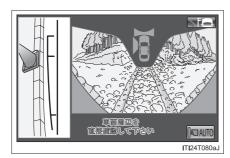
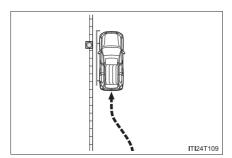
▶ 舵角連動線表示モード

ITI24T067aJ

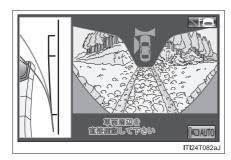
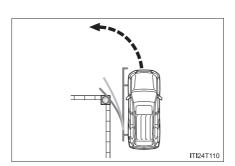
最小回転予想進路表示モードに予想進路線が追加されます。

■ 進路線表示モードの切りかえ

ITI24T067aJ

 にタッチする。タッチするごとに、次のように切りかわります。

舵角連動線表示モード
↓
最小回転予想進路線表示モード
↓
進路線消去モード

■ 車幅表示線と進路線の使い方

▶ 車幅表示線

ITI24T080aJ

車幅表示線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を見ます。

イラストのように車幅表示線が重ならないように車両を幅寄せします。同時に車幅表示線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

ITI24T109

▶ 最小回転予想進路線・予想進路線

ITI24T082aJ

最小回転予想進路線や予想進路線（表示時）と障害物との位置関係を見ます。

イラストのように最小回転予想進路線（青）が障害物上にあるときや、最小回転予想進路線（青）の内側に障害物があるときは、小回りすると障害物に接触する可能性があります。

ITI24T110

予想進路線（黄）を表示しているときは、予想進路線が障害物の外側になるハンドル操作量を維持して、車両が障害物を通り過ぎるまで旋回してください。

知識

■作動条件

▶ 通常表示モード

車速が約 12km/h 未満のとき

▶ 自動表示モード

● 自動表示モードを選択しているとき

● シフトレバーを D、S または N にしたとき

● シフトレバーが D、S または S にあるときで、車速が約 10km/h 以下になったとき

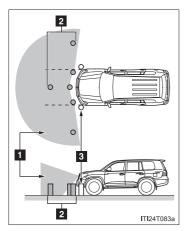
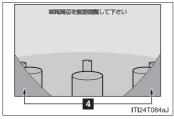
■システムが自動で解除されるとき

次の場合、マルチテレインモニターが自動で解除されます。

● 車速が約 12 km/h をこえたとき
車速が約 12 km/h を超えた場合、少しの間は表示が継続されます。もし表示が消える前に車速が約 12 km/h 以下になれば表示は解除されません。

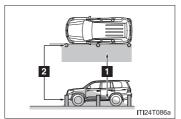
● 現在地など画面外のスイッチを押したとき

■割り込み表示について

クリアランスソナーの検知範囲に障害物があるとき、割り込み表示が表示されます。(→P. 229)

■ドアミラーを格納したとき

ドアミラー格納作動中のときは、一時てきに OFF 画面になりますが、格納後は、通常とおなじ画面表示に戻ります。

■画面に映る範囲

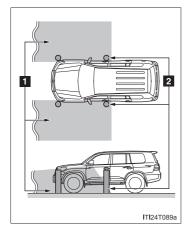
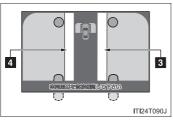
カメラが撮影できる範囲には限りがあり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは撮影できません。また、車両や路面の状況により、ディスプレイに映る範囲が異なる場合があります。

●フロントカメラ

1 カメラのおよその撮影範囲

2 カメラが認識できる障害物

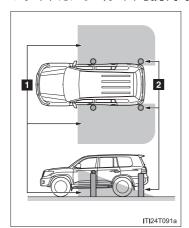
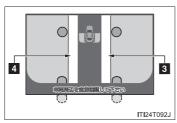
3 死角となる障害物

4 車両前方の外装部品（バンパーやグリルなど※）

※バンパーコーナー部ではありません。

●サイドカメラ（ワイドビューフロント＆サイドモニター画面）

1 カメラのおその撮影範囲

2 カメラが認識できる障害物

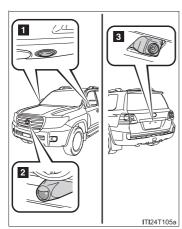
3 車両左側部分

●サイドカメラ（サイド前方同時表示画面）

1 カメラのおよその撮影範囲

2 カメラが認識できる障害物

3 車両右側部分

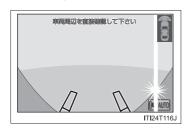
4 車両左側部分

●サイドカメラ（サイド後方同時表示画面）

1 カメラのおよその撮影範囲

2 カメラが認識できる障害物

3 車両右側部分

4 車両左側部分

●リヤカメラ（バックガイドモニター）
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■マルチテレインモニターカメラ

1 サイドカメラ

2 フロントカメラ

3 リヤカメラ

●カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。オフロード走行後は水洗いし、やわらかい布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

●次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。

・暗いところ（夜間など）
・レンズ付近の温度が高い、または低いとき
・カメラに水滴が付いたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
・カメラ付近に異物（泥など）が付着したとき
・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき
・飛び石がレンズにあたり傷付いたとき

■スミヤ現象について

ITI24T116J

高輝度の点（車体に反射した太陽等）がカメラに映ると、CCD カメラ特有のスミヤ現象※が発生することがあります。

※高輝度の点（車体に反射した太陽等）がカメラに映ると、その点の上下（縦方向）に尾を引く現象

■マルチテレインモニターの画質調整について

ナビゲーション画面の調整方法と同様です。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■バッテリーを再接続したときは

ITI24T117J

フロント画面に表示されるガイド線が表示されません。
ハンドルを直進状態にして一定時間走行してください。

警告

■マルチテレインモニターについて

●マルチテレインモニターはオフロード走行を補助する装置です。オフロード走行するときは、必ず車の周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

■ガイド線について

●乗車人数・積載量などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。
必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●バンパーガードなど車両の全長に影響を与える部品を取り付けた場合、フロント画面の距離目安線との位置関係がかわる場合がありますので注意してください。

■運転時の注意点

●マルチテレインモニターを過信しないでください。
一般の車と同様に、必ず周囲の安全と直接確認しながら慎重に走行してください。特に周辺の障害物などに接触しないようにしてください。

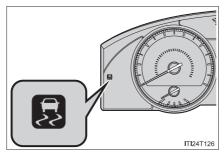
●画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは必ず目視やミラーなどで周囲の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご連絡ください。タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

⚠ 注意

■カメラについて

マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことに注意してください。

- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐに拭き取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時、またはすべりやすい路面やオフロード（砂利・砂地・泥地・氷雪路など）でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ アクティブ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を 4 輪別々に抑制すると共に、降坂時のエンジンブレーキ抜けによる加速を抑制し、車両の方向安定性と駆動力の確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

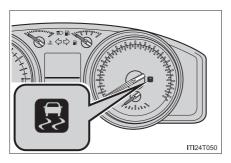
■ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）*

オフロード走行時やカーブ時などの路面状況や運転状況に応じて、油圧によりサスペンションスタビライザーを制御して、走行安定性の確保に貢献します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせてホイールが切れる角度を調整します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 293

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

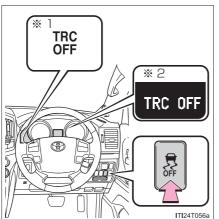
VSC・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

▶ アナログメーター

ITI24T126

VSC・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

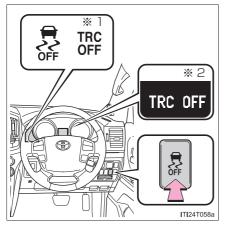
▶ オプティトロンメーター

ITI24T050

VSC・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

アクティブ TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、アクティブ TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、アクティブ TRC や VSC を停止することにより脱出しやすくなります。

■ アクティブ TRC を停止するには

アクティブ TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

TRC OFF表示灯が点灯するかマルチインフォーメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※ 1: アナログメーター装着車

※ 2: オプティトロンメーター装着車

■ アクティブ TRC と VSC を停止するには

アクティブ TRC と VSC を停止するには停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、TRC OFF 表示灯が点灯するかマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※ 1: アナログメーター装着車

※ 2: オプティトロンメーター装着車

知識

■アクティブ TRC や VSC の自動復帰について

アクティブ TRC や VSC を作動停止にしたあと、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、自動的にアクティブ TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■アクティブ TRC OFF の作動制限

アクティブ TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとアクティブ TRC は作動を再開します。

■アクティブ TRC と VSC OFF の作動制限

アクティブ TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・VSC・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- マルチテレイン ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- マルチテレイン ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

●シフトレバーが D または S の位置にあるとき

●ブレーキペダルが踏まれていないとき

■VGRS の作動が停止する場合

以下の状況では、VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき

●バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき

●－ 30 ℃以下でエンジンを始動したあと

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC OFF 表示灯が点灯するかマルチインフォーメーションディスプレイ*に「TRC OFF」と表示され、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。
（この間の通常走行は可能です）

しばらくして、TRC OFF 表示灯かマルチインフォメーションディスプレイ*の表示が消えれば、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■マルチテレイン ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■マルチテレイン ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

マルチテレイン ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■アクティブ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、アクティブ TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■アクティブ TRC や VSC を OFF にするときは

アクティブ TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外はアクティブ TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。アクティブ TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したらとくに慎重に運転してください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 480）
異なったタイヤを装着すると、マルチテレイン ABS・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

注意

■KDSS に関する注意

以下の場合はシステム異常のおそれがあり、乗り心地や悪路走破性が損なわれる可能性がありますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- コーナーを曲がる際に、車の傾きが通常より大きくなったと感じられるとき
- 縁石に乗り上げたり、傾斜地など車両が傾いた状態で長時間放置したあと、走行を続けても傾きがもどらないとき（水平地にもどした直後は傾いたままになることがあります）

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突の可能性があると検知したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、衝突被害の軽減に寄与します。

■ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS警告灯が点滅、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュシートベルト(フロント席)

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 85)
ただし、VSC が作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

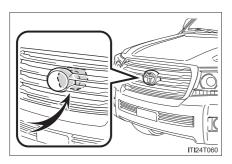
■ プリクラッシュブレーキアシスト

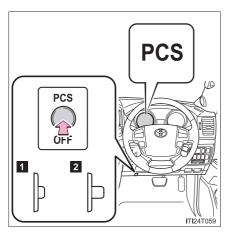
衝突が避けられないと判断したときに、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いと判断したときに警告灯・警告表示・ブザーで警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキをかけて、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキを OFF にすることができます。(→P. 295)

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したときに、ショックアブソーバーの減衰力を最適に制御します。(→P. 248)

プリクラッシュブレーキの切り替え

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF 切り替えができます。

1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

プリクラッシュセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速、進路から衝突する可能性を事前に判断します。

知識

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・自転車・オートバイ・木・雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■システムの作動条件

●**プリクラッシュシートベルトの作動条件：**

・フロント席の乗員がシートベルトをつけている
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両か障害物の接近速度が約 30 ～ 40km/h 以上

●**プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：**

・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～ 40km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●**プリクラッシュブレーキの作動条件：**

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●細い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき

●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき

●前を走っている車に急に近付いたとき

●路面の勾配のため、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えたとき

●ETC ゲートを高速で通過したとき

●陸橋を通過したとき

●車高が極端に変化しているとき

●レーダーの軸がずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

レーダーセンサーやフロントグリルのカバーの前後面が雪や氷などで汚れた場合、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「PCS 現在使用できません」と表示されます。雪や氷などの汚れを取り除き、走行すると警告灯は消灯します。

■プリクラッシュシートベルトが作動し、シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は

車を安全な場所に停車して、シートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 426, 433)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
PCS は運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

PCS は、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
PCS は、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
PCS は、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 警告

■レーダーセンサーの取り扱い

PCS が効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

●レーダーセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーセンサー周辺の強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●レーダーセンサーを分解しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

●レーダーセンサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

警告

■荷物を積むときは

●以下の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・運転席足元
・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー*
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●ルーフレール*には直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて →P. 305）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底について雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け･取りはずし･取り扱い方法については、以下の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所でおこなう

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しをおこなう

■4-Wheel AHC & AVS 装着車は

寒冷時は、4-Wheel AHC の作動に制限がかかる場合があります。
(→P. 245)

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■タイヤチェーン取り付け時の警告

４-Wheel AHC & AVS 装着車は、車高制御を停止させてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P. 239)

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

● トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● アルミホイール*にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

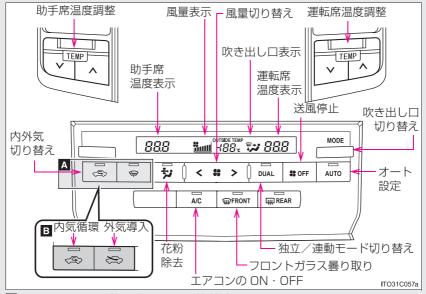
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内装備の使い方 3

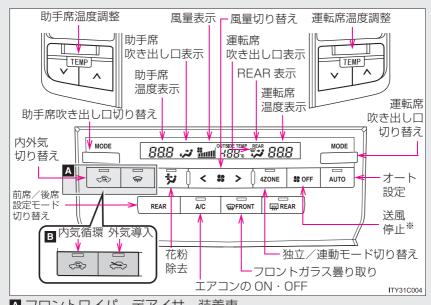
3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

フロントエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

■ ナビゲーションシステム装着車

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■ ナビゲーションシステム非装着車

▶ リヤエアコン非装着車

A フロントワイパーデアイサー装着車

B フロントワイパーデアイサー非装着車

▶ リヤエアコン装着車

A フロントワイパーデアイサー装着車

B フロントワイパーデアイサー非装着車

※クールボックスがONのときは、フロントエアコンを停止することができません。（→P. 344）

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは

の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

運転席と助手席の温度を別々に調整できます。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

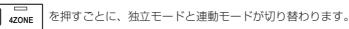
▶ リヤエアコン非装着車

温度を上げるときは

の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

DUAL を押すごとに、独立モードと連動モードが切り替わります。

独立モード（

の表示灯が点灯）：運転席と助手席の温度を別々に調整できます。助手席の温度調整をすると、自動で独立モードに切り替わります。

連動モード（ DUAL の表示灯が消灯）：全席の設定温度が運転席の設定温度と連動します。

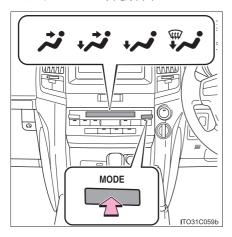
▶ リヤエアコン装着車

温度を上げるときは TEMP ∨ ∧ の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

4ZONE を押すごとに、独立モードと連動モードが切り替わります。

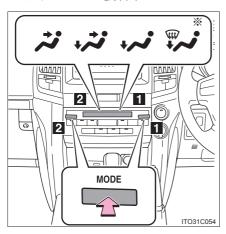
独立モード（ 4ZONE の表示灯が点灯）：操作した席の温度を別々に調整できます。助手席や後席の温度調整をすると、自動で独立モードに切り替わります。

連動モード（ 4ZONE の表示灯が消灯）：全席の設定温度が運転席の設定温度と連動します。

■ 風量をかえるには

＜ ＞ の“＞”側（増）か“＜”側（減）を押す

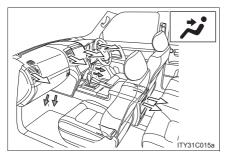
風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

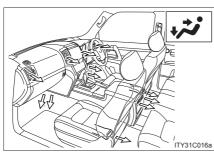
■吹き出し口を切り替えるには

▶ リヤエアコン非装着車

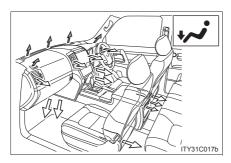
MODE を押す

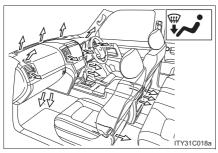
押すたびに吹き出し口が切り替わります。

▶ リヤエアコン装着車

MODE を押す

1 運転席側切り替え

2 助手席側切り替え

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。
運転席と助手席の吹き出し口を別々に選択できます。

※運転席側のみ

上半身に送風

：AUTO モードのとき

上半身と足元に送風

足元に送風

：AUTO モードのとき

足元に送風・ガラスの曇りを取る

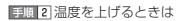
※ 後席の吹き出し口は設定によってかわる場合があります。

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

▶ フロントワイパーデアイサー装着車

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。
内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

▶ フロントワイパーデアイサー非装着車

内気循環に切り替えるには、 を押す

外気導入に切り替えるには、 を押す

前席からリヤエアコンを操作するには（リヤエアコン装着車）

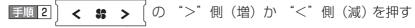
■ 設定温度をかえるには

を押す

温度を上げるときは

の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

の“∧”側か“∨”側を押すと、後席左右の温度を別々に調整できます。（独立モード）

を押すと、全席の設定温度が運転席の設定温度と連動します。（連動モード）

を押すごとに、独立モードと連動モードが切り替わります。

■ 風量をかえるには

を押す

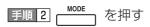
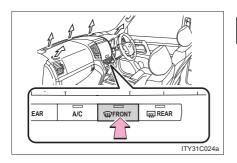
の“＞”側（増）か“＜”側（減）を押す

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

■ 吹き出し口を切り替えるには

を押す

を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。（→P. 322）

フロントガラスの曇りを取るには

FRONT を押す

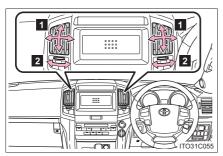
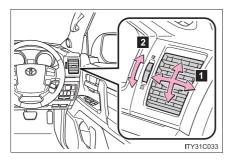
エアコンが作動します。

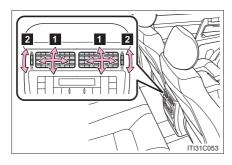
自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度 を押すと、前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に（外気温が低いときは 約 1 分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 後席吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■外気温度が０℃以下のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去機能について

●外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

・内気循環に切り替わらない
・エアコンが自動的に作動する

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去機能が OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

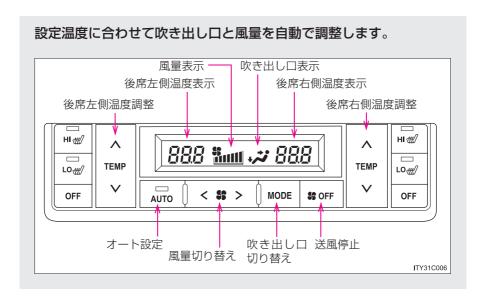
● エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

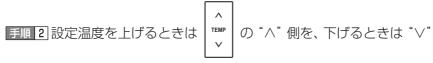
■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、[FRONT] を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤエアコン*

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

後席左右の温度を別々に調整できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

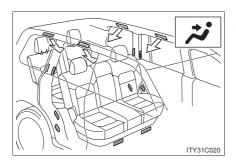
お好みの設定で使うとき

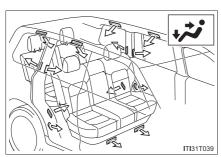
■ 設定温度をかえるには

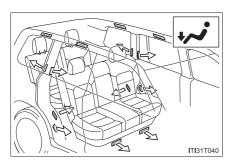
温度を上げるときは TEMP の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

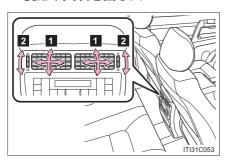
後席左右の温度を別々に調整できます。

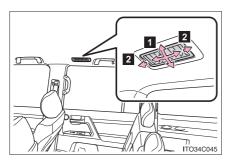
■ 風量をかえるには

の“>”側（増）か“<”側（減）を押す

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

■吹き出し口を切り替えるには

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 後席中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ サイドルーフ吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

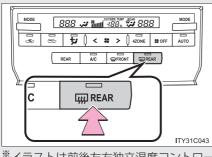
以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

- AUTO を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

▶ **ナビゲーションシステム装着車**

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ **ナビゲーションシステム非装着車**

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

※イラストは前後左右独立温度コントロールオートエアコンで代表しています。

ON ／ OFF

押すごとに ON・OFF が切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。

リヤウインドウデフォッガーは自動的に OFF になります。

作動時間は外気温や車速によってかわります。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーター装着車は

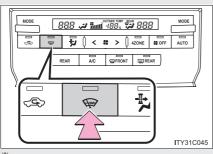
リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。（→P. 98）

警告

■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー*

▶ **ナビゲーションシステム装着車**

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ **ナビゲーションシステム非装着車**

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

※イラストは前後左右独立温度コントロールオートエアコンで代表しています。

ON ／ OFF

押すごとに ON・OFF が切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

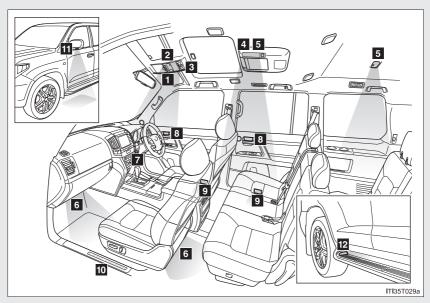
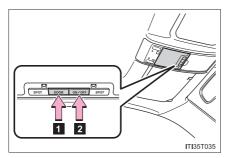
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

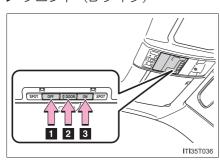
■作動中の警告

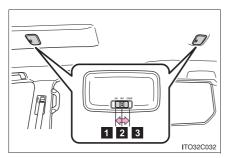
フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

※イラストは 8 人乗り車で代表しています。

1 フロントインテリアランプ*（→P. 329）
2 フロントパーソナルランプ*（→P. 331）
3 シフト照明*（“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モード）
4 リヤパーソナルランプ*（→P. 331）
5 リヤインテリアランプ（→P. 329）
6 足元照明*
7 “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明
8 インサイドハンドル照明*
9 ドアカーテシランプ*
10 フロントスカッフプレート照明*
11 ドアミラー照明*
12 ステップ照明*

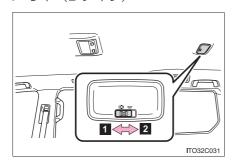
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インテリアランプ＊

▶ フロント（A タイプ）

1 ドア連動 ON ／ OFF

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

2 点灯／消灯

▶ フロント（B タイプ）

1 消灯

2 ドア連動 ON ／ OFF

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

3 点灯

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

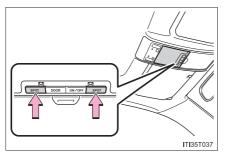
▶ リヤ（A タイプ）

1 点灯

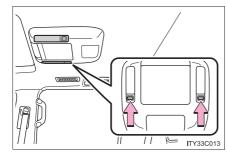
2 消灯

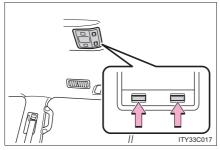
3 ドア連動

ドアの開閉に連動して作動します。

▶ リヤ（B タイプ）

1 ドア連動

フロントインテリアランプをドア連動にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

2 点灯

パーソナルランプ*

▶ フロント

点灯／消灯

▶ リヤ（A タイプ）

点灯／消灯

▶ リヤ（B タイプ）

点灯／消灯

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

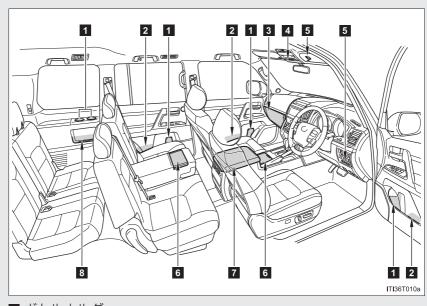
知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■自動消灯機能

インテリアランプスイッチのドアポジションが ON のとき、半ドア状態で次の照明が点灯したままの場合は、約 20 分後に自動で消灯します。
（“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF のときのみ）

- ●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
- ●フロントインテリアランプ*
- ●リヤインテリアランプ
- ●インサイドハンドル照明*
- ●足元照明*
- ●ドアミラー照明*
- ●ステップ照明*

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

注意

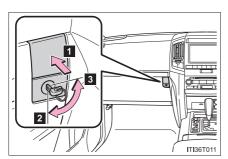
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

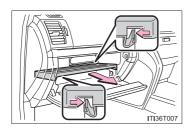
1 ボトルホルダー
2 ドアポケット
3 グローブボックス
4 オーバーヘッドコンソールボックス*
5 カードホルダー
6 カップホルダー
7 コンソールボックス
クールボックス*
8 小物入れ

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

1 開ける（ボタンを押す）
2 メカニカルキーで施錠
3 メカニカルキーで解錠

知識

■グローブボックスランプについて

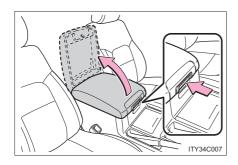
車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開くとランプが点灯します。

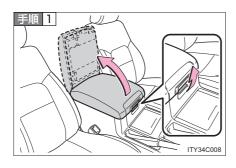
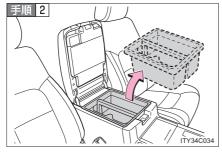
■仕切り板について

仕切り板下側にあるツメ（2ヶ所）をはずして取りはずすことができます。

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

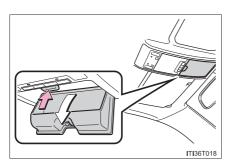
下段ボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプ（下段コンソールボックス）があります。
クールボックスについては、P. 344 を参照してください。

▶ 上段コンソールボックス

ノブを押してフタを持ち上げる

▶ 下段コンソールボックス*

レバーを引いてフタを持ち上げる

トレイをはずすときは、そのまま持ち上げる

トレイは AX、ZX に装着されます。

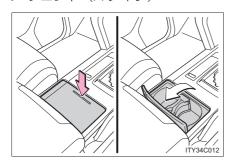
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■走行中の警告

コンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

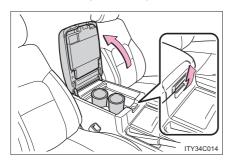
オーバーヘッドコンソールボックス*

ボタンを押す

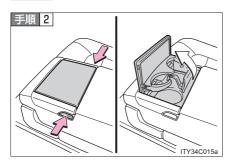
サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

⚠ 警告

■走行中の警告

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カップホルダー

▶ フロント（A タイプ）

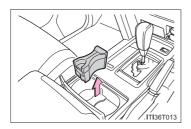
フタを押す

▶ フロント（B タイプ）*

下段コンソールボックスのフタを開ける

▶ リヤ*

手順 1 セカンドシートアームレストを引き出す（→P. 361）

ボタンを押す

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■フロントカップホルダー（A タイプ）を取りはずすには

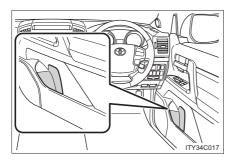
ベース部分を持ってホルダーを引き上げます。

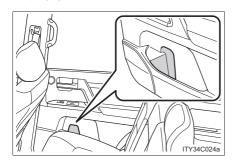
⚠警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

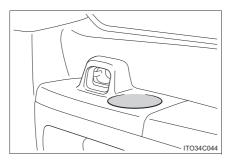
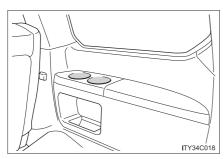
■カップホルダーを使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■カップホルダーの破損を防ぐために

- カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

▶ フロントドア

▶ リヤドア

▶ ラゲージルームサイド部（トノカバー非装着車）

▶ ラゲージルームサイド部（トノカバー装着車）

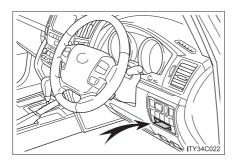
知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

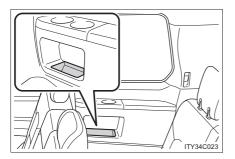
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

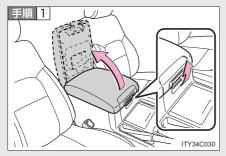
カードホルダー

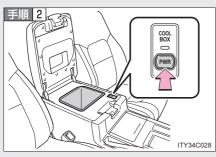
▶ サンバイザー（運転席側）

▶ 運転席横*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

小物入れ

※イラストは８人乗り車で代表しています。

警告

■走行中の警告

小物入れには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クールボックス＊

エンジンがかかっているとき、エアコンを利用した保冷をすることができます。

レバーを引いてフタを持ち上げる

ON ／ OFF

クールボックスが ON のときは、表示灯が点灯します。

フロントエアコン停止中にクールボックスを ON にすると、自動的にフロントエアコンが作動します。

知識

■クールボックスが ON のとき

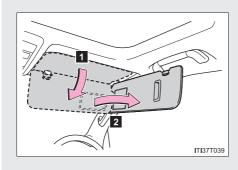
フロントエアコンを停止することはできません。

■外気温が約 0 ℃以下のとき

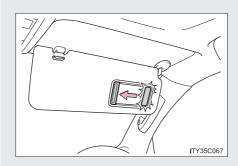
保冷機能が作動しない場合があります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■走行中の警告

クールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はクールボックスを長時間 ON の状態にしないでください。

サンバイザー

1 下ろす

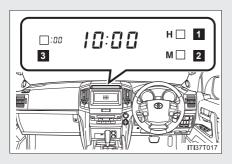
2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

ITY35C067

カバーを開けるとランプが点灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンを停止した状態で、長時間点灯しないでください。

時計

▶ **ナビゲーションシステム装着車**

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ **ナビゲーションシステム非装着車**

ボタンを押して時刻を調整することができます。

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

3 “分” を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■**時刻が表示されるとき**

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■**バッテリー端子の脱着をしたときは**

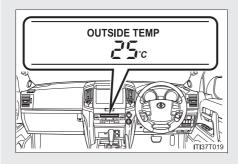
時計は自動的に 1:00 にセットされます。

外気温度表示

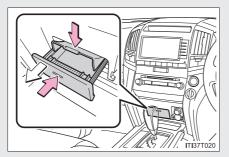
▶ **ナビゲーションシステム装着車**

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ **ナビゲーションシステム非装着車**

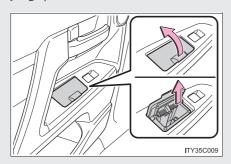
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき、－ 30 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

知識

■“--”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

灰皿

▶ フロント

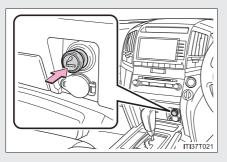
フタを押して開ける

取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。

▶ リヤ

フタを開ける

取りはずすときは、フタを持って引き上げます。

⚠ 警告

■使用後について

フタを必ず閉じてください。走行中の思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

■出火を防ぐために

- ●マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- ●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

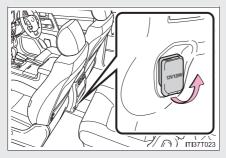
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

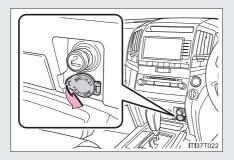
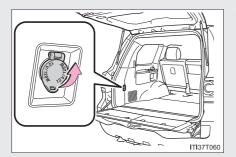
警告

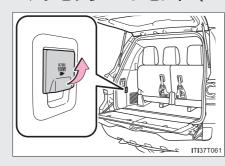
■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント

アクセサリーソケット：12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。
アクセサリーコンセント：AC100V 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

■ アクセサリーソケット

▶ フロント

フタを手前に引いて開ける

▶ リヤ

フタを手前に引いて開ける

▶ ラゲージルーム（GX のみ）

フタを手前に引いて開ける

■ アクセサリーコンセント（AX、ZX のみ）

フタを引き上げて開ける

知識

■使用条件

アクセサリーソケット:“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリーコンセント：“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 端子*と同時に使用することができない場合があります。
USB 端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

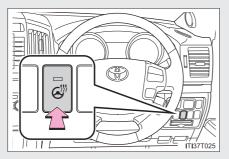
■ショートや故障を防ぐために

ソケットやコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

アクセサリーソケット：12V 10A を超えないようにしてください。

アクセサリーコンセント：AC100V で最大消費電力 100W を超えないようにしてください。
最大消費電力が 100W を超える電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。

- 起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ・コンプレッサー式冷蔵庫・電気ポンプ・電動工具など）
- 電源周波数の切り替え（50 ／ 60Hz）のある機器（時計・オーディオなど）
- 精密なデータを計測する機器（医療機器・計量器など）
- その他（マイコン制御式電気毛布・タッチセンサー付きランプなど）

ステアリングヒーター＊

ハンドルのレザー部分を暖めることができます。

ON ／ OFF

作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON のとき

■タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■インジケーターが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

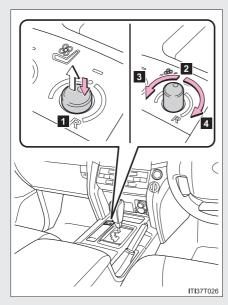
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

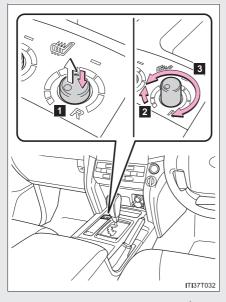
■やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方がふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

シートヒーター&ベンチレーター*

シートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

■ フロントシートヒーター&ベンチレーター(ZX のみ)

1 ツマミを押し出す

温度や風量を調整したあとはツマミを押しもどしてください。

2 OFF

3 シートから風を出す

インジケーターが点灯します。
ツマミを左にまわすほど風量が強くなります。

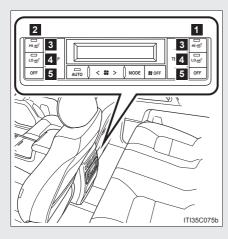
4 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
ツマミを右にまわすほど高温になります。

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ フロントシートヒーター＊

1 ツマミを押し出す

温度を調整したあとはツマミを押しもどしてください。

2 ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

3 温度を調整する

右にまわすほど温度は高くなります。

■ セカンドシートヒーター＊

1 運転席側用スイッチ

2 助手席側用スイッチ

3 強

4 弱

5 OFF

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

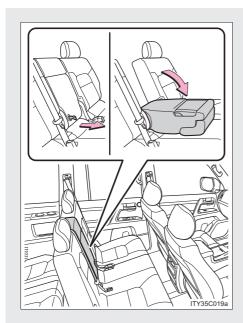
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■フィルターについて

ベンチレーターにはフィルターが入っています。交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■やけどを防ぐために

- 低温やけどのおそれがあるため、以下の方はとくにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

注意

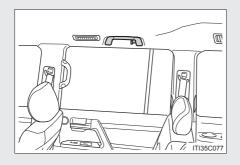
■シートヒーター & ベンチレーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチをOFFにし、インジケーターが消えたことを確認してください。

アームレスト*

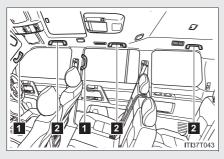
ストラップを引きながらアームレストを倒します。

⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コートフック＊

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフック＊が付いています。

⚠ 警告

■コートフック＊へかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、それらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アシストグリップ

天井に取りつけられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

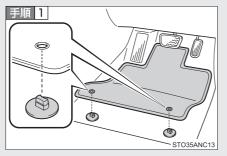
乗降時などでは、ピラーに取りつけられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

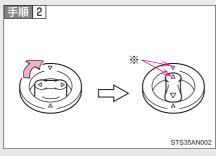
1 アシストグリップ （固定式）

2 アシストグリップ （回転式）

警告

■アシストグリップ（回転式）について

アシストグリップ （回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

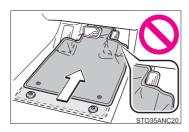
お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

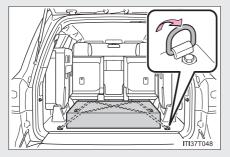
固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

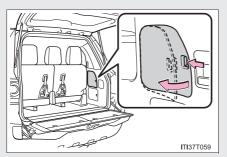
※△マークを必ず合わせてください。

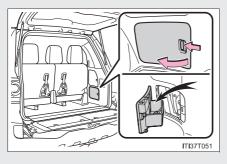
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

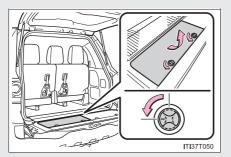
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

■ ロープフック

積荷の固定用としてご使用ください。

■ 小物入れ*

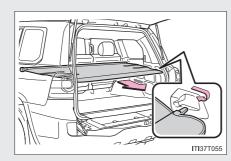
▶ 上側

ツマミを押しながら、手前に引いてフタを開く

▶ 下側（フタ内側の収納ポケット）

ツマミを押しながら、手前に引いてフタを開く

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 三角表示板等収納スペース

ITI37T050

ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを持ち上げて開く

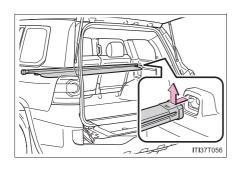
三角表示灯を収納し、中のバンドで固定します。

■ トノカバー*

ITI37T055

カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける

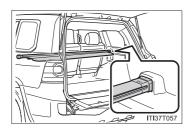
トノカバーを取りはずすときは*

ITI37T056

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■トノカバーを取り付けるときは*

両端の“TOP”を上にして取り付けてください。

警告

■ロープフックについて

使用しないときは、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■走行中の警告

各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボディコート・ホイールコート・ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー*が引っかかり、洗車ができない場合や、傷付いたり破損するおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■車両移動をともなう洗車機を使うときは

侵入・傾斜センサー*を停止してください。（→P. 120）
車両が動くとオートアラームが作動します。

■アルミホイール*

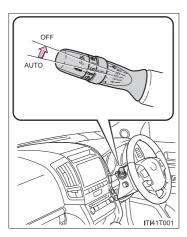
●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング*

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて*

●撥水効果を長持ちさせるため、以下のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・研磨剤が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などで大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは極力乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 82)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P. 128)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（とくにインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

●革に付いたほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■フロアに水がかかると

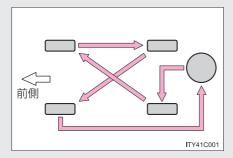
フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス、リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

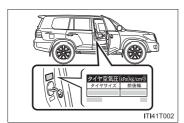
タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示すとおりにタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

ITI41T002

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm²)]	
	前輪	後輪
275/65R17 115S	230(2.3)	230(2.3)
285/60R18 116H	230(2.3)	230(2.3)
285/50R20 112H	230(2.3)	230(2.3)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

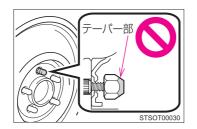
■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しないでください。

警告

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車が横すべりする

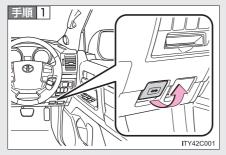
●車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

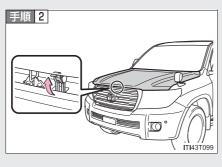
■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下するおそれがあります。
また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

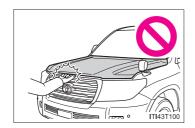
ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ **走行前の確認**

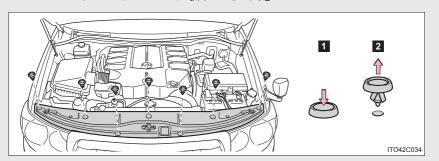
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ **エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

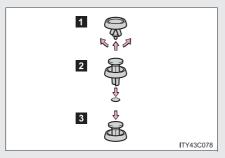
■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ボンネットやダンパーステーの損傷を防ぐために**

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

● ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

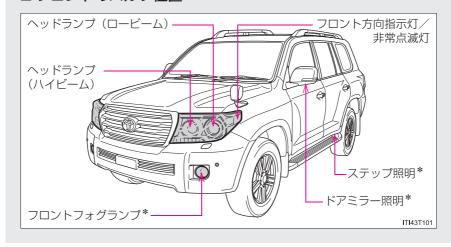
■ クリップの取り付け方

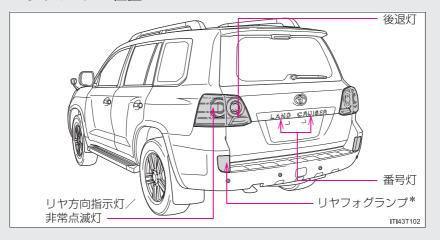
1 広げる
2 挿し込む
3 押す

⚠ 警告

■ エンジンルームカバーを取りはずすときは

カバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■**エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 480）

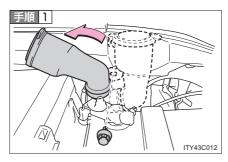
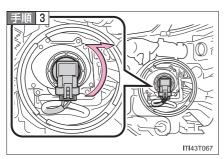
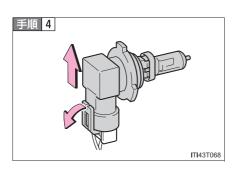
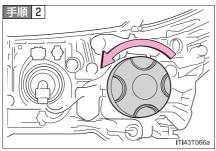
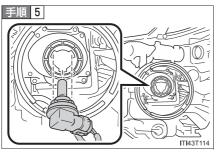
■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 382

■ フロントのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ロービーム）

助手席側の交換時は、ウォッシャー液補給口の固定クリップ（1 個）をはずし、補給口を車両後方に傾ける

カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

手順 4

電球を取りはずす

手順 5

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

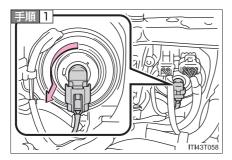
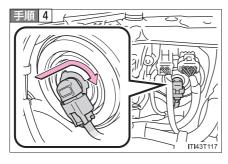
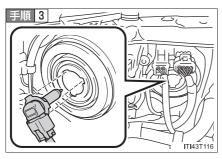
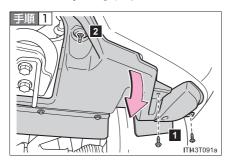
手順 6

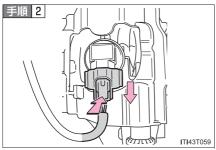
ソケットをまわして固定する

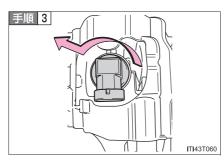
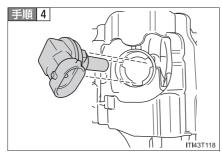
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 7 カバーを取り付けるときは、手順 2 と逆の手順で取り付ける

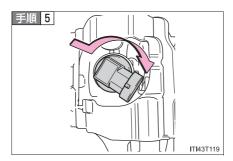
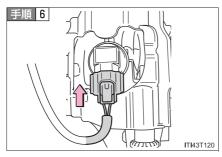
手順 8 助手席側を交換したときは、手順 1 と逆の手順で取り付ける

■ ヘッドランプ（ハイビーム）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

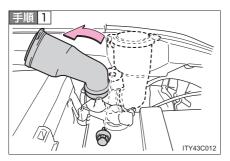
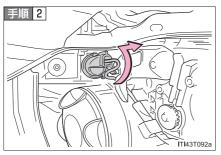
■ フロントフォググランプ*

ボルト（2 本）をはずし、ナット（1 個）をゆるめ、カバーをめくる

1 ボルト

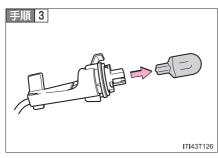
2 ナット

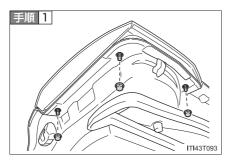
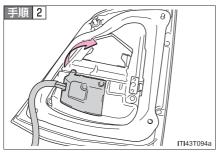
コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換する

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

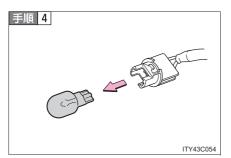
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

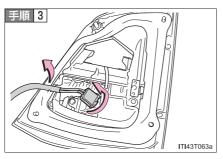
電球をまわして固定する

ソケットを取り付ける

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

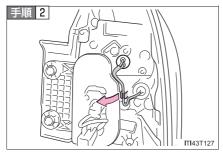
手順 7 カバーを取り付けるときは、手順 1 と逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

助手席側の交換時は、ウォッシャー液補給口の固定クリップ（1 個）をはずし、補給口を車両後方に傾ける

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

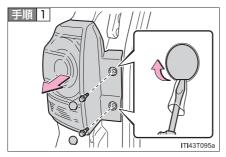
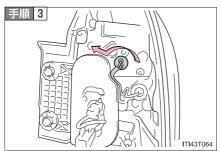
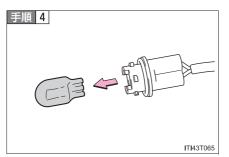
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

バックドアを開け、ナット（3 個）をはずし、ランプ本体をはずす

カバーをはずす

ハーネスをとりはずし、ソケットを取りはずす

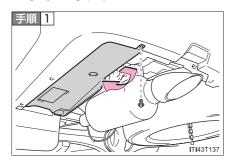
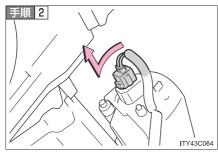
手順 4

電球を取りはずす

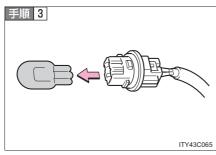
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

バックドアを開け、カバー（2 個）とボルト（2 本）をはずしランプ本体をはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ハーネスを取りはずす

ソケットを取りはずす

手順 4

電球を取りはずす

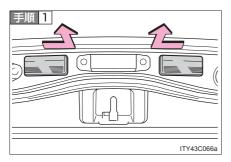
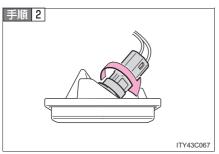
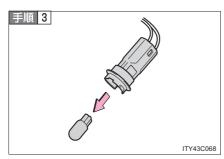
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ*

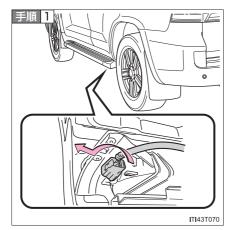
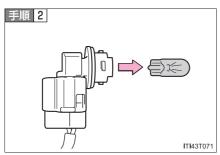
ボルト（1 本）をはずし、アンダーカバーをめくる

ソケットを取りはずす

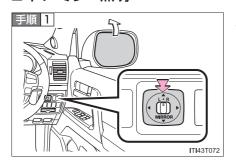
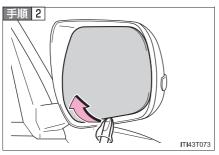
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

ランプ本体を取りはずす

車両内側に押し付けながら、手前に引いてはずします。

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

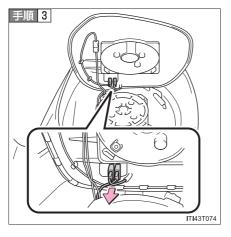
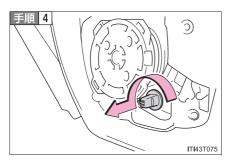
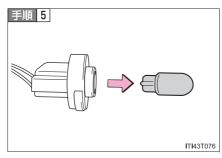
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ステップ照明*

手順 1 ソケットを取りはずす

手順 2 電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ドアミラー照明*

ミラーの鏡面を上向きに傾ける

鏡面を取りはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

コネクターを取りはずす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- 車幅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

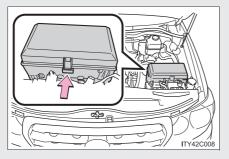
■ 電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

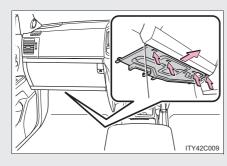
■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

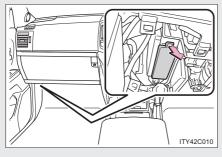
注意

■お車の故障や火災を防ぐために

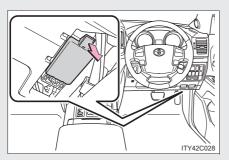
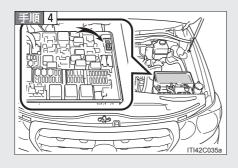
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

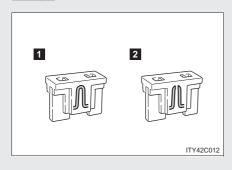
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

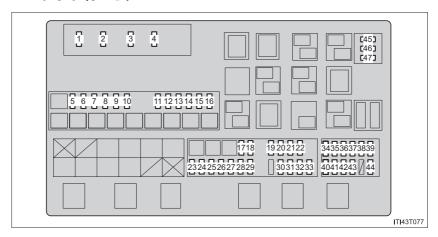
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元（ヒューズボックス A）

1 足元のカバーを取りはずす

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

▶ 運転席足元（ヒューズボックス B）＊

カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 405）で確認する

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

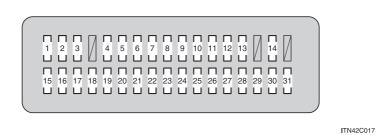
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	A/F	15A	A/F ヒーター
2	HORN	10A	ホーン
3	EFI MAIN	25A	EFI システム
4	IG2 MAIN	30A	インジェクター
5	SEAT-A/C LH	25A	シートヒーター&ベンチレーター
6	RR S/HTR	20A	リヤシートヒーター
7	DEICER	20A	フロントワイパーデアイサー
8	CDS FAN	25A	未使用
9	TOW TAIL	30A	未使用
10	RR P/SEAT	30A	リヤシート
11	ALT-CDS	10A	オルタネートコンデンサー
12	FR FOG	7.5A	フロントフォグランプ
13	SECURITY	5A	EFI コンピュータ
14	SEAT-A/C RH	25A	シートヒーター&ベンチレーター
15	STOP	15A	制動灯

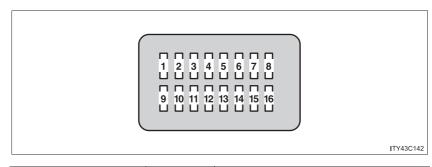
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	AI PUMP HTR	10A	未使用
17	IMB	7.5A	ID コードボックス
18	AM2	5A	メインボデー ECU
19	DOME2	7.5A	バニティランプ
20	ECU-B2	5A	ドライビングポジションメモリーシステム
21	AMP2	30A	オーディオ
22	RSE	7.5A	リヤシートエンターテイメント
23	TOWING	30A	未使用
24	DOOR NO.2	25A	メインボデー ECU
25	STR LOCK	20A	ステアリングロック ECU
26	TURN-HAZ	15A	方向指示灯／非常点滅灯
27	EFI MAIN2	20A	フェーエルポンプ
28	ETCS	10A	EFI システム
29	ALT-S	5A	オルタネータ
30	AMP1	30A	オーディオ
31	RAD NO.1	10A	オーディオ
32	ECU-B1	5A	スマートエントリー＆スタートシステム
33	DOME1	5A	カーテシライト
34	HEAD LH	15A	ヘッドランプハイビーム（左側）
35	HEAD LL	15A	ヘッドランプロービーム（左側）
36	INJ	10A	イグニッション、インジェクター
37	MET	5A	メーター
38	IGN	10A	スマートエントリー＆スタートシステム
39	DRL	5A	未使用
40	HEAD RH	15A	ヘッドランプハイビーム（右側）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
41	HEAD RL	15A	ヘッドランプロービーム（右側）
42	EFI NO.2	7.5A	エアフローメーター
43	RR A/C NO.2	7.5A	未使用
44	DEF NO.2	5A	ミラーヒーター
45	SPARE	5A	予備ヒューズ
46	SPARE	15A	予備ヒューズ
47	SPARE	30A	予備ヒューズ

■ 助手席足元（ヒューズボックス A）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	CIG	15A	シガレットライター
2	BK/UP LP	10A	後退灯
3	ACC	7.5A	スマートエントリー&スタートシステム
4	PANEL	10A	シガレットライター
5	ECU-IG NO.2	10A	エアコン・ヒーター
6	WINCH	5A	未使用
7	A/C IG	10A	リヤウインドウデフォッガー
8	TAIL	15A	尾灯・番号灯
9	WIPER	30A	フロントワイパー
10	WSH	20A	フロントウォッシャー
11	RR WIPER	15A	リヤワイパー
12	4WD	20A	4WD
13	LH-IG	5A	シートベルトプリテンショナー
14	ECU-IG NO.1	5A	ドアロック ECU
15	S/ROOF	25A	ムーンルーフ
16	RR DOOR RH	20A	パワーウインドウ
17	MIR	15A	電動格納ミラー
18	RR DOOR LH	20A	パワーウインドウ
19	FR DOOR LH	20A	パワーウインドウ
20	FR DOOR RH	20A	パワーウインドウ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
21	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
22	A/C	7.5A	エアコン
23	AM1	5A	未使用
24	TI & TE	15A	電動チルト＆テレスコピックステアリング
25	FR P/SEAT RH	30A	フロントシート
26	PWR OUTLET	15A	パワーアウトレット
27	OBD	7.5A	ダイアグノーシス
28	PSB	30A	プリクラッシュシートベルト
29	DOOR NO.1	25A	メインボデー ECU
30	FR P/SEAT LH	30A	フロントシート
31	INVERTER	15A	インバーター

■ 運転席足元（ヒューズボックス B）＊

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	RSF LH	30A	サードシート
2	B/DR CLSR RH	30A	リヤ ECU
3	B/DR CLSR LH	30A	リヤ ECU
4	RSF RH	30A	サードシート
5	DOOR DL	15A	未使用
6	AHC-B	20A	4-Wheel AHC ECU
7	TEL	5A	高機能 DCM
8	TOW BK/UP	7.5A	未使用
9	AHC-B NO.2	10A	4-Wheel AHC ECU
10	ECU-IG NO.4	5A	VGRS ECU
11	SEAT-A/C FAN	10A	送風シート
12	SEAT-HTR	20A	シートヒーター
13	AFS	5A	未使用
14	ECU-IG NO.3	5A	車間制御コンピュータ
15	STRG HTR	10A	ステアリングヒーター
16	TV	10A	ナビゲーションシステム

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 384)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

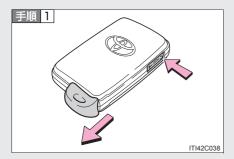
警告

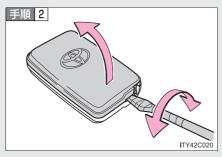
■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

● テープを巻いたマイナスドライバー

● 小さいプラスドライバーなど

● リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1

ITI42C038

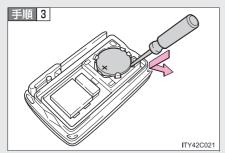
メカニカルキーを抜く

手順 2

ITY42C020

カバーをはずす

手順 3

ITY42C021

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■**電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■**リチウム電池 CR1632 の入手**

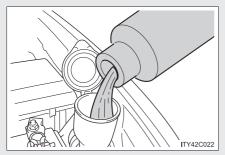
電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■**キー電池を交換したときは**

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり、布きれをあててからはずす
  カバーに傷が付くおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

▶ オプティトロンメーター装着車

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給してください。

▶ アナログメーター装着車

ウォッシャー液が出なかったり、ウォッシャー液残量警告灯が点灯したら、ウォッシャー液を補給してください。

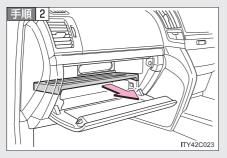
警告

■ **ウォッシャー液を補給するときは**

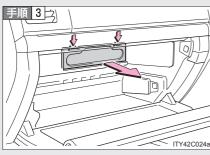
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

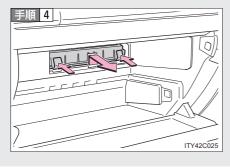
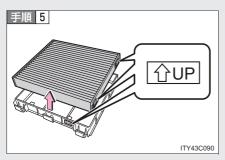
注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

■ **ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃・交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “エンジン　スタート　ストップ”　スイッチをイグニッションON モードにし、内気循環に切り替えて、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

グローブボックスを開け、仕切り板を取りはずす（→P. 335）

フィルターカバーを取りはずす

フィルターケースを取りはずす

手順 5

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km※] ごと
交換：30,000km [15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

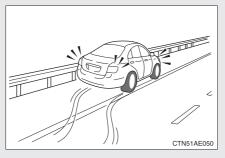
フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

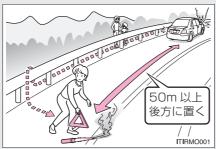
フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■エアコンフィルターを交換するときの注意

必ず"エンジン スタート ストップ"スイッチが OFF の状態でおこなってください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

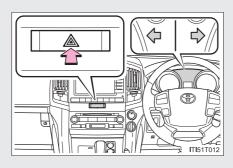
CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 419）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 420）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

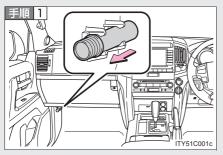
- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

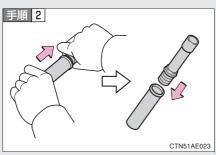
非常点滅灯（ハザードランプ）

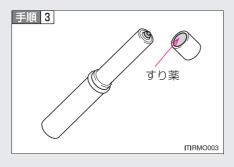
故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

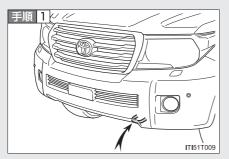
以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

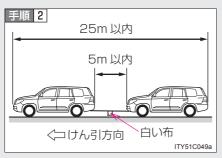
■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが、車が動かない

● 異常な音がする

■ けん引されるときは

手順 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方(30cm × 30cm)以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 トランスファースイッチをH4かつセンターデフロックをOFFの状態にし、センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認する

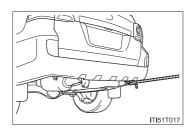
手順 5 4-Wheel AHC 装着車：車高を N（標準）モードにして車高制御を停止する（→P. 239）

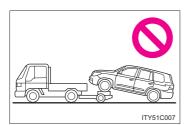
手順 6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

知識

■他車をけん引する

ITI51T017

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの使用目的

フロント側けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告

■**車両を運搬するときは**

必ず４輪接地または、４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

●駆動系内部の異常があると思われるとき、および次のときは、必ず車両積載車などにより４輪とも持ち上げて運搬してください。

ITY51C007

・センターデフロック作動表示灯が消灯せず、センターデフロックが OFF（解除）になったことが確認できないとき
・センターデフロック状態（ON のとき）で故障したとき

●4-Wheel AHC & AVS 装着車は、４輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高を N（標準）モードにして、車高制御を停止させた状態でおこなってください。オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P. 239）

■**けん引中の運転について**

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

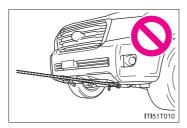
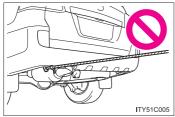
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

⚠ 注意

■固縛用フックについて

ITI51T010

ITY51C005

固縛用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに使用するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

上記の速度、距離を超えてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(バッテリー記号)	**充電警告灯** 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
A/T OIL TEMP	**オートマチックトランスミッション油温警告灯**※ ・トランスミッションフルードの温度異常（点灯） ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。 ・トランスミッションシステムの異常（点滅）
PCS	**PCS 警告灯**＊ プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→P. 290） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点滅します。（→P. 295） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→P. 437）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ・クロールコントロールの異常 ・マルチテレインセレクトの異常
	クルーズコントロール表示灯※ クルーズコントロールシステムの異常のおそれ ON-OFF スイッチを OFF にし、再度設定する。 設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※アナログメーター装着車

ただちに処置してください。

以下の警告は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 15L 以下）	燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER （ナビゲーションシステム装着車） PASSENGER （ナビゲーションシステム非装着車）	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2）** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
A/T P	**オートマチックトランスミッションパーキング警告灯** トランスミッションの異常	トランスファーを H4 または L4 にする（→P. 249）
	マスターウォーニング※3 システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。	→P. 433

警告灯	警告灯名・警告内容	
	ウォッシャー液残量警告灯※4 ウォッシャー液の残量	ウォッシャー液を補給する
	エンジンオイル警告灯※4 エンジンオイルの不足	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルトを非着用のまま、車速が約20km/h以上になると、警告ブザーが30秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

※3 オプティトロンメーター装着車

※4 アナログメーター装着車

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■L4作動表示灯やセンターデフロック作動表示灯が点滅したときは

所定の対処方法に従って処置してください 。(→P. 252)
ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法をおこなっても、L4作動表示灯やセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WDシステムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードのH4とL4間の切り替えができなくなったり、センターデフロックのロック、アンロックができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに処置してください。（アナログメーター装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内	車外	スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
1 回	なし	（10 秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	・“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする ・電子キーを携帯する
連続	連続		電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P 以外の状態で “ エンジンスタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを携帯する

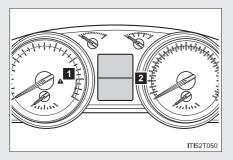
“エンジン スタート ストップ” スイッチ上のインジケーターについて

ITY52C001

“エンジン スタート ストップ” スイッチ上のインジケーターが点滅した場合は、下記の表に従ってそれぞれ対応してください。

インジケーターの状態	警告内容	対処方法
緑色に点滅（30 秒間）	エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった	ハンドルを左右に動かしながらエンジン始動操作をおこなう
橙色に点滅（15 秒間）	ステアリングロックシステムまたは電源システムに異常が発生した	トヨタ販売店に連絡する

警告メッセージが表示されたときは（オプティトロンメーター装着車）

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のように対処してください。

1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
ステアリングロック システムチェック	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
トランスミッション システムチェック	**オートマチックトランスミッションの異常** 警告ブザーが鳴ります。
PCSシステム チェック PCS	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常**※ 警告ブザーが鳴ります。

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容
クルーズシステム チェック	**クルーズコントロールシステムの異常※** メインスイッチを一度 ＯＦＦ にし、再度設定してください。
	レーダークルーズコントロールシステムの異常※ メインスイッチを一度 ＯＦＦ にし、再度設定してください。
4-WHEEL AHC システムチェック	**4-Wheel AHC システムの異常※** 警告ブザーが鳴ります。
ソナー システム チェック	**クリアランスソナー＆バックソナーの異常※** 異常のある部分にマークが表示され点滅します。
VGRS システムチェック	**VGRS の異常※**

※装着車のみ

ただちに処置してください。

次の内容は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席 ドア開	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときには [警告灯] が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ムーンルーフが 開いています （点滅）	**ムーンルーフが確実に閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた※**	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを 解除してください （点滅）	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h をこえたときに表示されます。	パーキングブレーキを解除する

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
AT油温異常 安全な場所に 停車してください	**オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くなった** 警告ブザーが鳴ります。	ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待つ しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。
PCS現在 使用できません PCS （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が現在機能していない※**	･グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ･プリクラッシュセーフティシステムが過熱している場合は、通常温度になるまで待つ
エンジンオイル不足	**エンジンオイルの不足**	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する
ウォッシャー液不足	**ウォッシャー液が残りわずか**	ウォッシャー液を補充する

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
給油して下さい	**燃料が残りわずか**	燃料を給油する
ソナー汚れ	**クリアランスソナーのセンサー部分の汚れ、氷などの付着※**	汚れおよび氷などを取り除く
レーダー汚れ 清掃必要	**レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着※**	汚れおよび氷などを取り除く
クルーズ現在 使用できません	**レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可※**	システムが悪天候と判断したため、使用できません。

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
80 km/h （点滅）	**（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性**※	ブレーキを踏む
ブレーキ! PCS （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動していることを示す** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速する

※装着車のみ

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	3 回	キーが見つかりません （点滅）	“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーがPの状態で、“エンジン スタート ストップ ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす
1 回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※

※電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→P. 36）

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアを開いた	シフトレバーをPにする
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません (交互に表示) (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れてください (点滅)	メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった “エンジン スタートストップ”スイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる
1回	なし	キーバッテリー 残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 334)

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押してください （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してから、エンジンを始動せずに“エンジンスタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに2回以上した	始動時はブレーキペダルを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
1回	なし	ステアリングロック未解除 （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

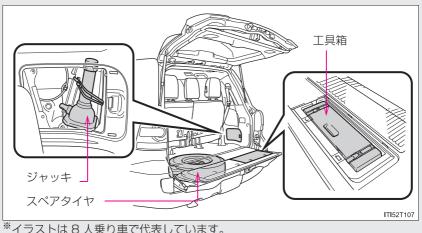
その他のメッセージ

次の内容は、それぞれの対処法に従って処置し、警告メッセージが消えるのを確認して下さい。(→P. 255)

警告メッセージ	対処方法
CRAWL操作時は L4に切替え、 DまたはRレンジに 入れて下さい	トランスファースイッチを L4 に切替え、シフトレバーを D か R にする
CRAWL操作時は 作動条件の確認を して下さい	クロールコントロールの作動条件に従って使用する
ターンアシスト機能 操作時は作動条件の 確認をして下さい	ターンアシスト機能の作動条件に従って使用する
ターンアシスト機能 操作時はCRAWLを ONにして下さい	ターンアシスト機能を操作可能にするには、クロールコントロールスイッチをONの状態にする

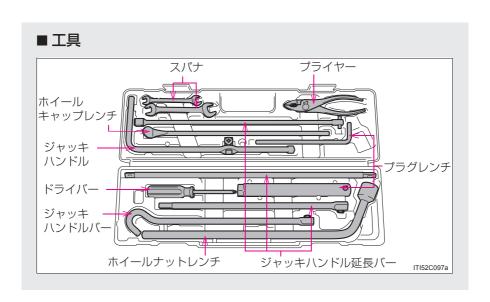
知識

■レーダークルーズコントロール＊の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常にゆっくりした車のとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルペダルが踏まれたとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 377 を参照してください)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

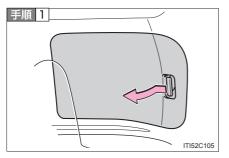
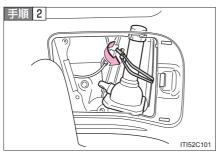
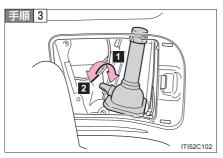
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 侵入・傾斜センサー*を OFF にする(→P. 117)
- 4-Wheel AHC 装着車:
  車高制御を停止する(→P. 239)
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

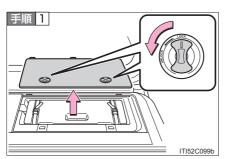
■ 工具とジャッキの搭載位置

※イラストは 8 人乗り車で代表しています。

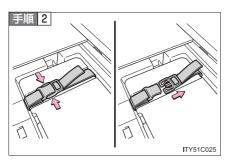
*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 工具

スパナ
プライヤー
ホイール
キャップレンチ
ジャッキ
ハンドル
プラグレンチ
ドライバー
ジャッキ
ハンドルバー
ホイールナットレンチ
ジャッキハンドル延長バー
ITI52C097a

ジャッキの取り出し方

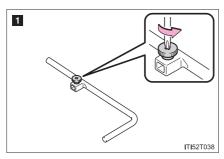
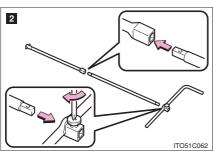
カバーを取りはずす

固定バンドをはずす

1 ゆるめる

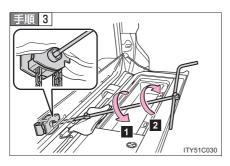
2 締める

使用後はもとの位置にもどします。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。

工具箱の取り出し方

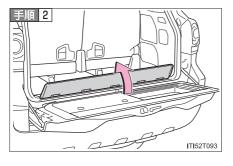
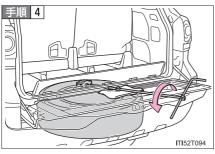
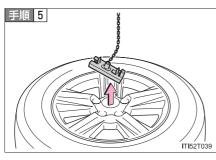
カバーをはずす

ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを開きます。

固定バンドをはずして取り出す

スペアタイヤの取り出し方

手順 1 ジャッキハンドルを組み付ける

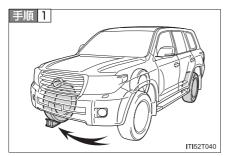
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バーを取り出し、次の手順で組み付けます。

1 ネジ部（1ヶ所）をドライバーを使用してゆるめる

2 ジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長バーを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

フタをめくる

組み付けたジャッキハンドルを挿し込む

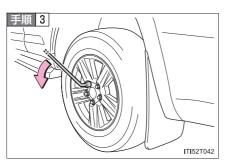
■1 下がる

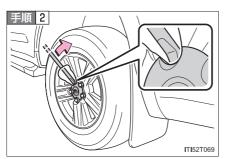
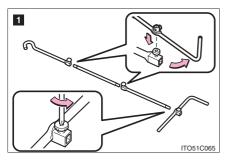
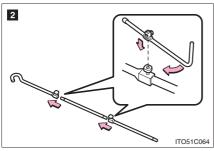
■2 上がる

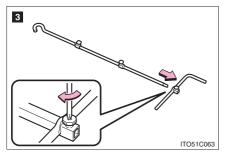
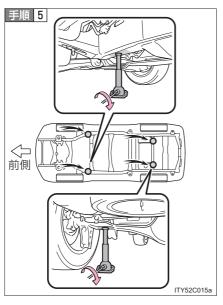
当て布をジャッキハンドルの下にしてバックドアを保護してください。

スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる

スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

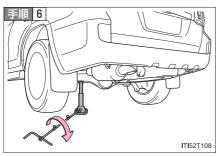
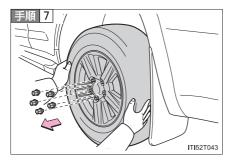
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

センターオーナメントをはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

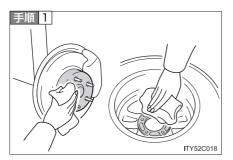
手順 4 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し、次の手順で組み付けます。

1 ボルト（2 本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

2 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2 本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。

3 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

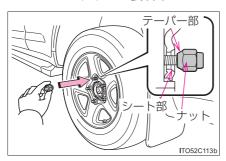
ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

組み立てたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

フロント：シャシーフレームサイドレール下

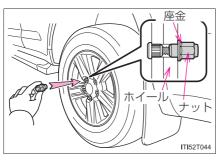
リヤ：リヤアクスルハウジング下

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

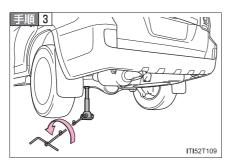
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にしてください。

タイヤの取り付け

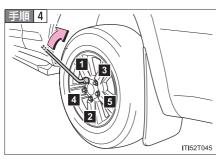
ITY52C018

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

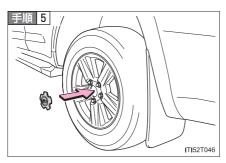
▶ スチールホイール装着車

ITO52C113b

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイール装着車

ITI52T044

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク

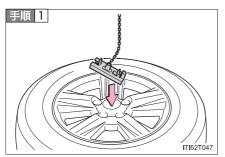
スチールホイール装着車：

209N・m (2131kgf・cm)

アルミホイール装着車：

131N・m (1336kgf・cm)

センターオーナメントを取り付ける

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

タイヤの意匠面が上になるように地面に置き、アンカープレートを取り付ける

アンカープレートのツメをホイールの穴にかけてください。

手順 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる（→P. 450）

タイヤが地面から離れたときに、アンカープレートがホイールの穴に確実にかかっていることを確認してください。また、タイヤを十分に巻き上げたら、確実に固定されていることを確認してください。

手順 3 工具・ジャッキを収納する

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 480）

■オートアラームについて

タイヤ交換をおこなう前に、必ず侵入・傾斜センサー*を停止してください。（→P. 120）
車両が動くとオートアラームが作動します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●車高制御が停止の状態で、エンジンを停止する（→P. 239）（4-Wheel AHC & AVS 装着車）
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・４-Wheel AHC & AVS 装着車は、車高制御を停止させてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P. 239)

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに適正な締め付けトルクでナットを締める
スチールホイール装着車：209N・m (2131kgf・cm)
アルミホイール装着車：131N・m (1336kgf・cm)
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける(→P. 379)

■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチ(→P. 46)をOFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワーバックドアスイッチを操作したときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**タイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納後、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 169）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 171）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 169）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 115）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 467）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 462）

■ **スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 467)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

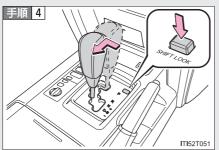
通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押し続ける

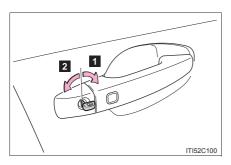
上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

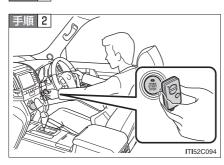
キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 26)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 39）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

ITI52C100

メカニカルキー（→P. 26）を使って操作します

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

メカニカルキーの操作でドアガラス・ムーンルーフの開閉を実施することができます（AX、ZX のみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

モードの切り替え／エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

ITI52C094

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ” スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが “エンジン スタート ストップ” スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 次の操作をおこなう

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→P. 170）

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

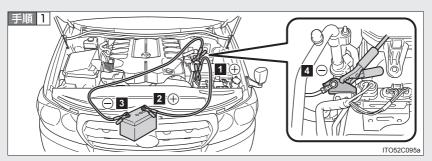
処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 412）

■販売店で設定可能な機能

ドアキー連動ドアガラス開閉機能などを設定することができます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 482）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

ボンネットを開け、バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

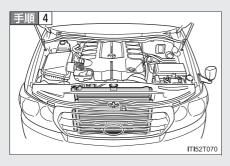
手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 382)

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 478）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- ●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

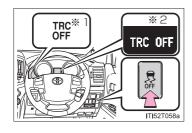
警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●ボンネット（→P. 380）、エンジンルームカバー（→P. 382）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてエンジンを停止する

手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く

手順 3 後輪の下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは

(OFF スイッチ) を押してアクティブ TRC を OFF にしてください。

※ 1: アナログメーター装着車
※ 2: オプティトロンメーター装着車

■エクストラハイモード（4-Wheel AHC & AVS 装着車）

→P. 243

警告

■脱出するときは

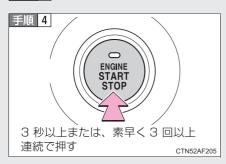
前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

“エンジン スタート ストップ” スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

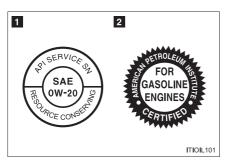
車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、[指定銘柄］といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	93

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">指定銘柄</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値※1）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td>トヨタ純正モーターオイル SN 0W-20※2
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル SN 5W-20
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル SN 10W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30</td><td>7.1</td><td>7.5</td></tr>
</table>

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

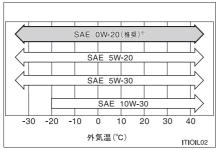
■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い (数値が大きい) オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	リヤエアコン装着車	リヤエアコン非装着車
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% −12 ℃ 濃度 50% −35 ℃	17.5	14.7

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	11.1

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）	
	フロント	リヤ
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.90	4.20

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.45

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.2

サスペンション（4-Wheel AHC & AVS 装着車）

指定銘柄
トヨタ純正サスペンションフルード AHC

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	93 以上

※1　エンジン回転時に 490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200N (20kgf) のときのノッチ※2 数	5 ～ 7

※2　ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
275/65R17 115S	17 x 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
285/60R18 116H	18 x 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
285/50R20 112H	20 x 8 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	 55 60
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	車幅灯	LED ※
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）*	19
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	16
	制動灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグランプ*	21
	ハイマウントストップランプ	LED ※
	番号灯	5
	ドアミラー照明*	5
	ステップ照明*	3.8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

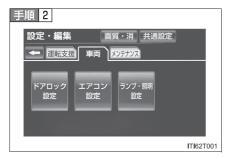
電球		W（ワット）数
車内	インテリアランプ*	8
	パーソナルランプ* GX、AX ZX	8 LED ※
	バニティミラーランプ	2
	ドアカーテシランプ	5
	グローブボックスランプ	1.2
	シフト照明*	LED ※
	インサイドハンドル照明*	LED ※
	足元照明*	LED ※
	スカッフプレート照明*	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
URJ202	1UR-FE（4.6L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両カスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

▶ ナビゲーションシステム装着車
ナビゲーションシステム（メーカーオプション）の画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

ナビゲーション画面で車両カスタマイズ設定をする

手順 1 **設定・編集** スイッチを押す

手順 2

ITI62T001

車両 にタッチし設定したい項目にタッチする

手順 3 各項目の設定をする

手順 4 **完了** にタッチする

設定変更中画面が表示されます。

設定変更中は他の操作をおこなわないでください。

完了 にタッチせずに、他の画面に切り替えると設定は変更されません。

車両カスタマイズ設定一覧

車両カスタマイズ設定は、トヨタ販売店で変更することができます。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、画面操作により設定を変更できる機能もあります。
また、車両側のスイッチ操作で設定できる機能もあります。

1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定可
2 車両側のスイッチ操作などで設定可
3 トヨタ販売店で設定可

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 28)	スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	○	―	○
	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	○	○
ワイヤレスドアロック (→P. 40)	ワイヤレス機能	する	しない	―	―	○
	半ドア警告ブザー	する	しない	―	―	○
	ワイヤレスリモコンの 2 回操作の解錠	しない	する	○	―	○
スマートエントリー&スタートシステム(→P. 28)とワイヤレスドアロック (→P. 40)共通	作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 7	OFF レベル 1 ～ 6	○	―	○
	作動の合図 (非常点滅灯)	する	しない	○	―	○

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td>ドアロック
(→P. 42)</td><td>メカニカルキーによる解錠</td><td>1 回で全ドア解錠</td><td>1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="6">パワーバックドア*
(→P. 45)</td><td>スイッチ操作</td><td>長押し</td><td>短押し</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td>作動中の合図（ブザー）</td><td>する</td><td>しない※1</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ワイヤレスリモコン操作</td><td rowspan="3">1 回
長押し</td><td>1 回短押し</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">—</td><td rowspan="3">○</td></tr>
<tr><td>2 回押し</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスリモコン連動機能（ワンモーション）</td><td>あり※2</td><td>なし※3</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
</table>

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
パワーウインドウ※4 (→P. 102)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ムーンルーフ＊※4 (→P. 106)	ドアキー連動開閉機能※5	なし	開閉作動 開作動のみ 閉作動のみ	—	—	○
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能※6	なし	開閉作動 開作動のみ 閉作動のみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能※7	なし	あり	—	—	○

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ランプ自動点灯・消灯システム(→P. 199)	ライトセンサーの感度調整	0	－２～＋２	○	—	○
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
イルミネーション(→P. 328)	室内照明の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	—	○
			30 秒			
			OFF			
	“エンジン スタートストップ”スイッチOFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
	解錠時の作動	する	しない	—	—	○
	ドアミラー照明・ステップ照明の点灯時間*	15 秒	7.5 秒	○	—	○
			30 秒			
			OFF			
	足元照明の点灯*	あり	なし	—	—	○
	シフト照明の点灯*	あり	なし	—	—	○
	接近時のルームランプの点灯*	あり	なし	—	—	○
クリアランスソナー(→P. 229)	リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	—	○
	ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	○

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
エアコン※8 (別冊「ナビゲーションシステム取扱書」参照)	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない	○	—	○
リヤワイパー&ウォッシャー (→P. 209)	車速切り替え機能※9	あり	なし	—	—	○
	液だれ防止機能※9	あり	なし	—	—	○
	ウォッシャー連動機能※9	あり	なし	—	—	○
	リバース連動機能※10	1 回	連続 なし	—	—	○
エコドライブインジケーターランプ (→P. 160)	エコドライブインジケーターランプの作動	する	しない	—	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
その他	周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	− 2 ～ + 2	—	—	○
	周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	− 2 ～ + 2	—	—	○

※ 1 この場合、作動開始時のブザーは残ります。

※ 2 この場合、ワイヤレスリモコン操作は「1 回長押し」に限定されます。

※ 3 この場合、バックドア解錠後ワイヤレスリモコンでバックドアを開けることができます。

※ 4 AX、ZX のみ。

※ 5 パワーウインドウのドアキー連動開閉機能が「あり」のときに設定が変更できます。

※ 6 パワーウインドウのワイヤレスリモコン連動開閉機能が「あり」のときに設定が変更できます。

※ 7 パワーウインドウのスマートエントリー＆ スタートシステム連動閉機能が「あり」のときに設定が変更できます。

※ 8 ナビゲーションシステム装着車のエアコンのみ変更ができます。

※ 9 ZX のみ。

※ 10 ZX の雨滴感知式ワイパー装着車のみ。

知識

■車両カスタマイズについて

●「スマートエントリー&スタートシステム」が しない の場合、「解錠ドアの選択」はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（ブザー）」・「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

■車両側のスイッチで設定をおこなった場合

ナビゲーションシステム装着車で、ナビゲーション画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーション画面の項目表示は、すぐに切り替わりません。
いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすると、画面表示が切り替わります。

■ナビゲーション画面でカスタマイズをおこなうときは

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作をおこなってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズをおこなうときは

エンジンをかけた状態で操作をおこなうため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスをおこなったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

<table>
<tr><th>項目</th><th>初期設定が必要なとき</th><th>参照</th></tr>
<tr><td>パワーバックドア*</td><td rowspan="3">・バッテリーの充電・交換後の再接続時
・ヒューズ交換後</td><td>P. 48</td></tr>
<tr><td>バックガイドモニター*</td><td>別冊「ナビゲーションシステム取扱書」</td></tr>
<tr><td>マルチテレインモニター*</td><td>P. 282</td></tr>
</table>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- バックガイドモニター
- エアコン
- ETC システム
- リヤシートエンターテイメントシステム
- ヘルプネットスイッチパネル

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
A/C	エアコン
ABS	アンチロックブレーキシステム
AHC	アクティブハイトコントロール
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
CRAWL	クロールコントロール
DISP	ディスプレイ
ECT	エレクトロニックコントロールトランスミッション
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
ETC	エレクトロニックトールコレクション
INT	インターミテント
KDSS	キネティックダイナミックサスペンションシステム
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
RSCA	ロールセンシングオブカーテンシールドエアバッグ
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊
「ナビゲーションシステム 取扱書」を参照してください。

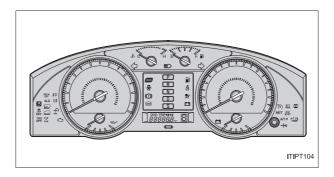
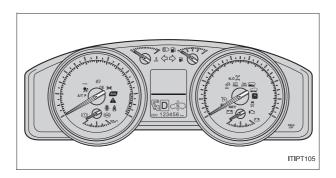
※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム 取扱書」を参照してください。

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム 取扱書」を参照してください。

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム 取扱書」を参照してください。

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム 取扱書」を参照してください。

症状別さくいん

症状	ページ	参照先
タイヤがパンクした	P. 446	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 461	エンジンがかからないときは
	P. 115	エンジンイモビライザーシステム
	P. 467	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 463	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 470	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 470	オーバーヒートしたときは
キーをなくした	P. 464	キーをなくしたときは
バッテリーがあがった	P. 467	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 28 P. 40 P. 42	ドア
バックドアが開かない	P. 49	バックドアが開かなくなったときは
ホーンが鳴り出した	P. 117	オートアラーム

ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 472	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 426	警告灯がついたときは

▶ アナログメーター

ITIPT104

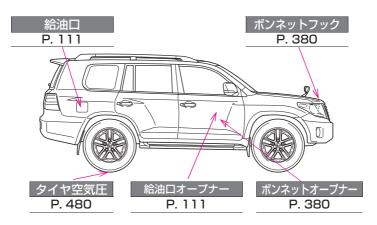
▶ オプティトロンメーター

ITIPT105

■警告灯一覧

警告メッセージが表示された（オプティトロンメーター装着車）

P. 433 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイ*の警告メッセージをご確認ください。

● 警告灯が点灯・点滅している（→P. 426）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 433）

■警告灯が点灯・点滅やマルチインフォメーションディスプレイ*に警告メッセージがないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 36
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 176
	シフトダウンしたとき	P. 176
	レーダークルーズコントロール*を使っているとき	P. 216
	ブレーキを踏んだとき	P. 166

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量
(参考値)</td><td colspan="3">93L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td colspan="3">無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）P. 112，476</td></tr>
<tr><td rowspan="4">タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>タイヤサイズ</td><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td>275/65R17 115S</td><td colspan="2" rowspan="3">230(2.3)kPa(kg/cm²)</td></tr>
<tr><td>285/60R18 116H</td></tr>
<tr><td>285/50R20 112H</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td colspan="3">オイルのみ交換時
7.1L
オイルとオイルフィルター交換時
7.5L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td colspan="3">トヨタ純正モーターオイル
・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20)
・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20)
・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30)
・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)</td></tr>
</table>